

【科目名】	臨床薬理学		【科目英語名】	Clinical Pharmacology	
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 伊藤邦彦				
【担当教員】	* 伊藤邦彦、伊藤由彦				
【授業の概要】	ナースとしての専門職に要求されるのは、患者に投与する薬に対する十分な知識と服用の効果を正しく評価する能力である。すなわち、薬の作用機序(薬理作用)、効果発現までの時間、効果持続時間、吸収と排泄、期待される効果、予測される副作用、他の薬(食品)との相互作用などを科学的に理解した上で、患者に薬を服用してもらうことが必要である。総論では、薬とは、薬の働き、薬の体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、神経・精神系薬、循環器系薬、呼吸器系薬、胃腸薬、利尿薬、内分泌系薬、生殖器系薬、糖尿病薬、痛風薬、抗アレルギー薬など個々の医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。				
【キーワード】	薬物療法, 薬物動態, 副作用				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 薬物が体内に入ってから消えるまでの過程について説明できる。 2. 代表的な治療薬について、薬物が効果を示すメカニズムについて説明できる。 3. 薬物の好ましくない作用について、そのメカニズムを説明できる。				
【授業方法】	テキストおよびパワーポイント(液晶プロジェクター)を用いて講義形式で授業を行う。授業の理解を深めるため、必要に応じてプリントを配布する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	第1章 薬理学総論 1.1-1.2(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第2回	第1章 薬理学総論 1.3(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第3回	第1章 薬理学総論 1.4-1.5(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第4回	第1章 薬理学総論 1.6-1.8(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第5回	第6章 炎症と免疫疾患に対する薬物(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第6回	第13章 悪性腫瘍に対する薬物(伊藤邦彦)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。			
第7回	第2章 末梢神経系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。			
第8回	第3章 中枢神経系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。			
第9回	第11章 代謝性疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。			
第10回	第10章 内分泌系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。			

		事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第11回	第5章 血液疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第12回	第4章 循環器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第13回	第9章 泌尿器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第14回	第7章 呼吸器系疾患に対する薬物、第8章 消化器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第15回	まとめ	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	薬理学は、基礎科目ではあるが、薬物療法を理解する上で非常に重要な科目である。薬理学は非常に幅の広い学問であるため、講義ですべてを網羅することは難しい。受講者は、予習・復習をしっかりと行い、疑問点については教員に確認して解決するよう努めるなど、意欲的に授業に出席することが望ましい。	
【関連科目】	特になし	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験(100%)で評価する(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)。	
【フィードバックの方法】	ユニパの Q & A で講義に関する質問を受け、できるだけ早く回答する(伊藤邦)。 ユニパで行う確認テストで自由記述欄を設け質疑を受け、返信機能を用いてフィードバックを行う(伊藤由)。	
【テキスト】	コメディカルのための薬理学 第4版/渡邊泰秀・安西尚彦・大内基司(編)/朝倉書店/978-4-254-33012-0	
【参考図書】	今日の治療薬/川合眞一 他編/南江堂/978-4524203345	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 薬剤師実務経験を有する教員が、実臨床で用いられる代表的な医薬品や薬物治療に関する基本的知識を講義する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	臨床栄養学		【科目英語名】	Clinical Nutrition	
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	三浦進司				
【担当教員】	三浦進司、*新井英一、*細岡哲也				
【授業の概要】	<p>食べるものの意味や何をどのくらい食べるのがよいのかといった基本的な理解を促し、栄養素の消化・吸収、代謝、ホルモンと食事との関連、食物摂取に対する生体の反応や適応の仕組みを理解することを目標とする。さらに生活状況に由来する栄養の問題を学び、健康の維持・増進のための食事、食生活の基盤を理解することを目的とする。</p>				
【キーワード】	栄養素の消化・吸収・代謝、栄養状態の評価、栄養ケア・マネジメント				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の基本的概念およびその役割を説明することができる。 2. 摂食行動から栄養素の消化・吸収・代謝とその生理的意義を説明することができる。 3. 栄養評価と栄養ケア・マネジメントの方法を説明することができる。 				
【授業方法】	<p>板書、パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式でおこなう。講義終了後に小テストによって知識を定着させ、重要事項の確認を促す。</p>				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	人間栄養学と看護：栄養と栄養素、保健・医療と栄養（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第2回	食物の摂取と消化・吸収：食欲、食物の摂取と消化吸収（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第3回	ビタミンの栄養：ビタミンの代謝と生理作用：（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第4回	ミネラルの栄養：ミネラルの種類・機能と代謝（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第5回	栄養素の代謝とその調節 1：糖質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第6回	栄養素の代謝とその調節 2：脂質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第7回	栄養素の代謝とその調節 3：タンパク質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第8回	エネルギー代謝：食品のエネルギーと体内のエネルギー消費（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第9回	食事摂取基準：食事摂取基準の概念とその活用 確認テスト1（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第10回	臨床栄養：代謝性疾患患者に対する食事療法1（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第11回	臨床栄養：代謝性疾患患者に対する食事療法2 確認テスト2（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第12回	栄養状態の評価・判定：栄養アセスメントの指標と方法（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第13回	栄養ケア・マネジメント：栄養ケアチームと栄養ケア計画（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第14回	ライフステージと栄養：乳児期から高齢期、特に高齢期における栄養ケアについて（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第15回	病気と栄養、まとめ 確認テスト3（新井英一）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				

【関連科目】	機能形態学Ⅰ、生物化学				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 3回の確認テストにより、100点満点で60点以上を合格とする(DP1-2:到達目標1~3に対応)。				
【フィードバックの方法】	確認テストの正解例を配布する。 質問についてはメールにて受け付け、必要に応じてユニパを通じてフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学第13版／中村丁次他著／医学書院／978-4-260-03861-4 配布するプリント				
【参考図書】	必要時講義内で紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当者のうち、医師および管理栄養士の実務経験のある教員が、その経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	病態学		【科目英語名】	Clinical Pathology	
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	60時間
【科目責任者】	* 荒井孝子				
【担当教員】	* 濱口侑大(非常勤)、* 四ノ宮健太(非常勤)、* 松田昌範(非常勤)、* 三枝美香(非常勤)、 * 齋藤優(非常勤)、* 佐藤辰宣(非常勤)、* 長井幸二郎(非常勤)、* 田中 聡(非常勤)、 * 有安宏之(非常勤)、* 金剛(非常勤)、* 袴田康弘(非常勤) * 西田正人(非常勤)、* 渡邊昌也(非常勤)、* 大端考(非常勤)、* 瀧雄介(非常勤)、 * 佐藤真輔(非常勤)、* 八木宏明(非常勤)、* 間浩之(非常勤)、* 広瀬正秀(非常勤)、 * 森本恵理子(非常勤)、* 恒吉裕史(非常勤)、* 佐藤幸(非常勤)、* 速水亮介(非常勤)、 * 松岡秀明(非常勤)、* 金本秀行(非常勤) 講義順に掲載				
【授業の概要】	1. 内科学は臨床医学の土台をなす学問である。臨床の場でよく目にする疾患を軸に、各臓器別に臨床症状、検査項目、治療法について系統的に講義する。内科学がカバーする範囲は膨大であり、限られた時間の講義ではごく一部の疾患についてしか教授できない。自己学習が特に重要である。 2. 外科的侵襲に対する生体反応、組織損傷の修復機序、ショックの基本的病態の理解と神経および血管反応および細胞レベルでの代謝、輸血・輸液・栄養補給の理論と投与方法など、病態の理解に基づく外科的治療(術前・術中・術後、救急救命)への取り組みについて、その特性と最近の動向を踏まえて講義する。さらに、外科的治療に伴う倫理的課題についても講義する。				
【キーワード】	系統別・疾患別の病態、検査、治療、看護				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 外科的・内科的疾患の発生・進展に関する病態およびそれに伴う検査・治療について理解を深め、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 2. 主な外科的治療および術前・術中・術後管理に関連した基礎的医学知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 3. 救命・救急を要する外来での治療・処置に必要な医学的知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。				
【授業方法】	講義は対面授業を基本とする。 1. 内科学:各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 2. 外科学:各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 テキストは事前・事後学習に利用し、授業においては、テキスト、配布資料や動画などを用いて講義する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(濱口侑大)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第2回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(四ノ宮健太)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第3回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(松田昌範)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第4回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(三枝美香)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第5回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(三枝美香)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第6回	内科:血液疾患の主症状・臨床検査・病態(齋藤優)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第7回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(佐藤辰宣)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第8回	内科:腎疾患の主症状・臨床検査・病態(長井幸二郎)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第9回	内科:自己免疫疾患の原因・臨床検査・病態(田中聡)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第10回	内科:内分泌疾患の原因・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第11回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(金剛)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第12回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(金剛)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第13回	内科:代謝性疾患の主症状・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第14回	内科:感染症の主症状・臨床検査・病態(袴田康弘)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第15回	内科:まとめ(荒井孝子)	内科学のまとめ			
第1回	外科:外科的侵襲の病態生理・ショック(西田正人)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第2回	外科:術前・術後管理と術後合併症(1)(渡邊昌也)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第3回	外科:術前・術後管理と術後合併症(2)(大端考)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第4回	外科:出血・止血・輸血療法(瀧 雄介)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第5回	外科:救急外科、外傷、外科的感染症(佐藤真輔)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ			

第6回	外科:熱傷管理(八木宏明)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第7回	外科:腫瘍に対する外科的治療(間 浩之)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第8回	外科:主な術式:呼吸器疾患と看護(広瀬正秀)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第9回	外科:術中管理:全身麻酔・局所麻酔と術中の看護に必要な知識(森本恵理子)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第10回	外科:主な術式:心臓血管外科疾患と看護(恒吉裕史)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第11回	外科:主な術式:脳神経外科疾患と看護(佐藤幸)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第12回	外科:主な術式:乳腺疾患と看護(速水亮介)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第13回	外科:主な術式:骨・関節疾患と看護(松岡秀明)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第14回	外科:主な術式:消化器疾患と看護(金本秀行)	事前:テキスト購読 事後:授業のまとめ
第15回	外科:まとめ(荒井孝子)	外科学のまとめ
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	症候論を履修していること	
【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 筆記試験 100%で評価する。そのうち内科 50%(DP1-2:到達目標 1 に対応)、外科 50%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)の成績で総合的に評価する。内科・外科それぞれ 6 割以上の点数を合格の条件とする。	
【フィードバックの方法】	講師への質問についてはユニバを介して回答する。	
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2]呼吸器/浅野浩一郎ほか/医学書院/978-4-260-03569-9 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3]循環器/吉田俊子ほか/医学書院/ 978-4-260-03557-6 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4]血液・造血器/飯野京子ほか/医学書院/ 978-4-260-03571-2 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5]消化器/南川雅子ほか/医学書院/ 978-4-260-03562-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6]内分泌・代謝/黒江ゆり子ほか/医学書院/ 978-4-260-03559-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]脳・神経/井手隆文ほか/医学書院/ 978-4-260-03561-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8]腎・泌尿器/今井亜矢子ほか/医学書院/ 978-4-260-03558-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症/岩田健太郎ほか/医学書院/ 978-4-260-03858-4 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論最新版/池上 徹他(編)/医学書院/978-4-260-04998-6 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 最新版/北川雄光他(編)/医学書院/978-4-260-04990-0	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 医師として臨床実務経験を有する教員が各病態を解説する。機能形態学(解剖・生理学)の基礎的知識が必要不可欠となる。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	公衆衛生学		【科目英語名】	Public Health	
【開講時期】	1年前期／編入3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*堀芽久美				
【担当教員】	*堀芽久美、*井上健一郎				
【授業の概要】	本講義では、集団の特性に合わせた公衆衛生対策を理解するため、集団の人口動態やライフスタイル、またその変化を適当に捉え、それらに起因する健康課題を明確化できるようになる。地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康課題に結びつくさまざまな社会環境要因とその対策について学び、日本および世界の公衆衛生対策の仕組みを理解し、説明できるようになる。				
【キーワード】	公衆衛生、保健行政、地域保健				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 統計資料から人口動態やライフスタイルを要約し、現状と変遷を解釈できる。 2. 人口動態やライフスタイルが健康に与える影響を理解できる。 3. 日本および世界における公衆衛生活動(計画から評価まで)の特徴を説明できる。				
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料に基づいて講義を行う。各講義の最後には、理解を計るための例題の出題と解説を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	公衆衛生学とは(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第2回	健康の測定と健康指標、人口統計、その他の統計(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第3回	主な疾病の予防① 循環器系疾患、糖尿病・メタボリックシンドローム(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第4回	主な疾病の予防② 感染症、がん、その他の疾患(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第5回	環境保健① 空気の衛生、水の衛生、公害と環境問題(井上健一郎)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第6回	環境保健② 衣食住の衛生、廃棄物(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第7回	地域社会と地域保健、地域保健活動と行政(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第8回	母子保健の課題、母子保健活動と行政(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第9回	子どもの健康状況、学校保健の組織と運営、学校保健教育(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第10回	働く人々の健康、労働災害・事故、職場における健康管理(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第11回	高齢者の健康状態、介護保険、地域包括ケアシステム(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第12回	精神の健康、精神保健福祉活動(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第13回	国際保健、日本・世界の国際保健活動(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第14回	災害保健、地域の災害保健計画(堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、例題の復習			
第15回	まとめ	事前:第14回までの要点のまとめ			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~3に対応)。				

【フィードバックの方法】	ユニパQAで質問を受け付け、次の講義の冒頭で回答・解説する。				
【テキスト】	シンプル衛生・公衆衛生学(最新版)／辻一郎, 上島通浩／南江堂／ISBN:978-4524203758 (疫学でも使用) 国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (保健医療統計学、疫学でも使用)				
【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* がん疫学研究・フィールド研究の経験や、医師の実務経験のある教員が、経験を生かした講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	社会福祉論		【科目英語名】	Theories and Issues of Social Welfare	
【開講時期】	1年後期/編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	江原 勝幸				
【担当教員】	江原 勝幸				
【授業の概要】	社会福祉の意義、理念、法・制度など社会福祉の基盤を学び、現代社会で援助を必要とする個人・家族及び地域社会の課題に対する支援や解決方法を理解する。その上で、保健医療と福祉が連携・協働して地域の生活課題に取り組む必要性やその方法について学ぶ。				
【キーワード】	ヒューマンライツ、ダイバーシティ、インクルージョン				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □P4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 社会福祉の意義、理念、目的など福祉実践の基盤となる人間尊重の原則について理解できる。 2. 現代社会の構造的な問題から生ずる多様で複合的な地域の生活課題の現状と課題を理解できる。 3. 看護学と社会福祉の関係性を踏まえ、生活で困難を抱えている人々への包括的な支援について理解できる。				
【授業方法】	各授業の前半では、配布したレジュメ及び資料に沿った各授業テーマに即した講義を行う。 各授業の後半では、前半の授業テーマ・内容に関連するDVD映像を視聴し、配布したワークシートの講義及び映像に関する感想・意見・質問をまとめ記入し、授業の学びを深める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	「社会福祉」とは何か：現代社会と福祉	事前：社会福祉に色イメージをつけ、その色をつけた理由をノートにまとめる。 事後：自分の色イメージがどこからきて、なぜその色イメージなのか考察する。			
第2回	災害と福祉：誰一人取り残さないインクルーシブな防災活動	事前：要配慮者の避難行動や避難生活の問題や困難についてノートにまとめる。 事後：災害時に保健医療福祉専門職及び地域住民にできること・すべきことを整理し、その為の平常時からの取り組みをノートにまとめる。			
第3回	日本国憲法と福祉：基本的人権の本質	事前：日本国憲法前文を声に出して読んでおく。 事後：第11条、第12条、第13条、第14条第1項、第25条を中学生がわかる言葉で言い換えて条文を理解する。			
第4回	健康で文化的な生活とは：機能するセーフティネットへ	事前：生活困窮者を支える社会のセーフティネットについて概要を押さえておく。 事後：セーフティネットから零れ落ちる理由や原因を調べ、それを防ぐために必要な対応策について考察する。			
第5回	社会福祉の史的変遷：措置から権利擁護へ	事前：措置制度とサービス利用制度の特徴や違いを調べてノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域福祉計画と重層的支援体制整備事業の実施状況について調べてみる。			
第6回	保健医療と福祉の連携：Care by the Community の実現	事前：自分が居住する地域の特性や課題を調べノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域包括ケアシステムの実施状況について調べてみる。			
第7回	これからの社会と福祉：地域共生社会の実現に向けて	事前：我が国の人口動態（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移（実測値・推計値）を調べ、今後予想される日本社会の課題を調べノートにまとめる。 事後：第1講目でつけた色イメージを振り返			

				り、現段階での色イメージがどこからきて、なぜそのイメージなのか考察する。	
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	保健福祉行政論				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 授業でのワークシート 60% (DP1-2: 到達目標 1・2 に対応)、提出課題レポート 40% (DP1-2: 到達目標 3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第 1 講～第 6 講で実施するワークシートで書かれた感想等については必ず目を通し、その中で特に優れた視点や独創的な意見等及び質問への回答などをいくつか次回講義冒頭で紹介する。				
【テキスト】	なし。各授業時にレジюме・関連資料配布し、参考資料を紹介する。				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	保健福祉行政論		【科目英語名】	Health and Welfare Services	
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*東野 定津				
【担当教員】	*東野 定津、*木村 綾、*藤本 健太郎、*堀 芽久美、*山本 智美、*天野 ゆかり				
【授業の概要】	保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みを学ぶ。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。				
【キーワード】	保健福祉、保健行政、社会保障				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握し、課題を理解している。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学び、看護職の役割を理解している。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学び、看護職の関わりを理解している。				
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料を用いた講義により進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	保健医療福祉行政の仕組みと変遷(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第2回	公共健康の概念と医療保険(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第3回	高齢者福祉と介護保険制度(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第4回	生活保護法、生活困窮者自立支援法(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第5回	児童家庭福祉と子供の健康(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第6回	雇用保険、労働者災害補償保険(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第7回	社会保障と少子高齢化対策(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第8回	年金保険制度の持続と支援(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第9回	公私の連携で社会的孤立解消へ(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第10回	障害者福祉制度と地域活動(外部)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第11回	日本におけるたばこ対策の動向について(堀芽久美)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第12回	保健医療福祉政策の実際①(母子保健)(外部)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第13回	保健医療福祉政策の実際②(歯科衛生)(山本智美)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第14回	保健医療福祉政策の実際③(介護人材)(天野ゆかり)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績はレポート100%で評価する(DP5:到達目標1~3に対応)。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				

【科目名】	保健医療統計学		【科目英語名】	Health Statistics	
【開講時期】	1年前期／編入3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*堀 芽久美				
【担当教員】	*堀 芽久美、*濱井 妙子				
【授業の概要】	健康に関する現状の把握、保健・医療活動の立案・効果の評価への活用に向けて、保健・医療統計資料の意味を理解し、統計数値を読み取り、正しく解釈できるようになることを目的とする。死亡率、罹患率、有病率等の代表的な統計指標や、医療保障、国際的な指標、地域保健、環境保健、感染症の統計等、健康に影響する社会環境要因とその政策に関する統計を学ぶ。地域社会における人々の健康課題を、統計学の方法や、保健・医療統計等の資料を用い、総合的に把握するための基礎的な能力を身につける。				
【キーワード】	国勢調査、人口動態調査、疾病統計				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 統計調査の内容と、その調査から得られる統計指標を理解している。 2. 統計指標の意味を理解し、正しく解釈できる。 3. 調査データから統計指標を計算できる。				
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題を課す。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	保健統計の基礎① 統計指標（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第2回	保健統計の基礎② 統計調査（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第3回	人口静態統計① 国勢調査（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第4回	人口静態統計② 人口ピラミッド（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第5回	人口動態統計① 出生率、合計特殊出生率、その他（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第6回	人口動態統計② 死亡率、年齢調整死亡率（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第7回	人口動態統計③ 死因別死亡率（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第8回	生命表、平均寿命、健康寿命（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第9回	疾病統計① 患者調査、推計患者数、受療率、平均在院日数、その他（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第10回	疾病統計② 国民生活基礎調査、有訴者率、通院者率、その他（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第11回	疾病統計③ 国民健康・栄養調査、その他の保健統計（堀芽久美）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義中に紹介した統計ウェブサイトを開覧すること			
第12回	疾病統計④ 感染症発症動向調査、食中毒統計、その他（堀芽久美）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義中に紹介した統計ウェブサイトを開覧すること			

		閲覧すること			
第 13 回	疾病登録(がん疾患、循環器疾患、その他) (堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義中に紹介した統計ウェブサイト を閲覧すること			
第 14 回	健康指標の国際比較 (堀芽久美)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義中に紹介した統計ウェブサイト を閲覧すること			
第 15 回	まとめ	事前:第 14 回までの講義の要点をまとめる 事後:講義で学んだ統計調査の最新の結果 を復習すること			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)。				
【フィードバックの方法】	各回授業の冒頭で、リフレクションペーパーに記載された質問へのコメントと演習問題の解答を解説する。				
【テキスト】	国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (公衆衛生学・疫学でも使用)				
【参考図書】	保健統計・疫学(最新版)／福富和夫, 橋本修二／南山堂／978-4525053376 (疫学でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA／978-4896328585				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*がん疫学研究、フィールド研究、薬剤師の経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報処理演習		【科目英語名】	Seminar in Information Processing	
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 東野 定律				
【担当教員】	* 東野 定律、* 大久保 誠也				
【授業の概要】	看護研究を進めていく上で必要となるデータの理解、可視化はもとより、集計をはじめとする統計の手順について解説し、具体例を使用しながら説明を行う。				
【キーワード】	情報科学、統計処理、看護における情報				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 情報の概念、Word の使用方法を学び文章作成の知識を身につけている。 2. エクセルを用いてグラフや表作成方法を学び、使用方法に関する知識を身につけている。 3. データの理解、可視化、集計、統計処理の基本について理解している。				
【授業方法】	オンデマンド講義を中心とした Word や Excel といったソフトの使用方法をはじめとし、看護研究に必要とされるデータ処理、可視化、統計分析手法とその手順について、実際にコンピュータを使用しながら分析を行う。なお、講義した内容については、必ず演習問題を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	はじめに(計算機へのログイン)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第2回	情報とは(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第3回	文章作成の基礎(PCの基礎とメモ張等による文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第4回	文章作成の基礎(MS-Wordによる文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第5回	表計算の基礎(MS-Excelによる表計算の基礎)(データの並び替え、データの集計:和、平均)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第6回	表計算の基礎(MS-WordとMS-Excelを組み合わせた利用) データ表現(棒グラフ、折線グラフ等)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第7回	中間まとめ(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第8回	基本統計量と統計的研究の予備知識、表形式のデータ説明、データ解析(データの種類、分析ツール、図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第9回	散布図・相関係数(データの図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第10回	回帰直線と近似曲線(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第11回	正規分布(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第12回	統計的推定(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第13回	統計的検定(データの比較)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第14回	一元配置分散分析(データの比較)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は演習問題 40%(DP1-2:到達目標 1~3に対応)と最終試験 60%(DP1-2:到達目標 1~3に対応)の結果により総合的に評価を行う。				

【フィードバックの方法】	演習課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。石村 友二郎他「Excel で学ぶ医療・看護のための統計入門」東京図書*のデータを使用しますので必ず持参のこと				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	疫学		【科目英語名】	Epidemiology	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*堀 芽久美				
【担当教員】	*堀 芽久美、*濱井 妙子				
【授業の概要】	効果的な保健・医療活動の実施のために、人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチを保健・医療に関する課題解決に向けて活用できるようになることを目的とする。講義では、疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学習する。				
【キーワード】	疾病頻度、因果関係、研究デザイン				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 疫学の概念を理解できる。 2. 疾病頻度の指標を計算し、解釈できる。 3. 疾病と危険因子の関連の指標を計算し、解釈できる。 4. 疫学研究方法の違いや特徴を理解し、利点・欠点を理解できる。				
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題を課す。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	疫学の概念と歴史（濱井妙子）	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第2回	疫学的因果論①疫学的病因論(疾病と曝露の関係、危険因子、多要因論など)（濱井妙子）	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第3回	疫学的因果論②因果関係の立証(因果関係の判断基準、因果関係の立証を困難にする要因:誤差・偏り・交絡)(濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第4回	疫学指標①健康指標(罹患率、累積罹患割合、有病割合)（濱井妙子）	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第5回	疫学指標②関連の指標(死亡率、年齢調整死亡率)（濱井妙子）	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第6回	疫学指標③関連の指標(曝露効果:相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合)（濱井妙子）	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第7回	スクリーニング検査の原理と方法(濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読んでくること 事後:リフレクションペーパー・演習問題解答の提出			
第8回	疫学研究法①記述疫学、横断研究、生態学的研究（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:各研究手法の利点・欠点をまとめる			
第9回	疫学研究法②コホート研究（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:コホート研究の利点・欠点をまとめる			
第10回	疫学研究法③症例対照研究（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:症例対照研究の利点・欠点をまとめる			
第11回	疫学研究法④介入研究、臨床試験（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:介入研究の利点・欠点をまとめる			
第12回	疫学研究法⑤メタアナリシス（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:メタアナリシスの利点・欠点をまとめる			
第13回	誤差、偏り、交絡の制御、ランダムサンプリング（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:誤差・偏りの種類をまとめる			
第14回	疫学の応用 活用事例（堀芽久美）	事前:テキスト対応箇所を読んでくること			

		事後:身近な疫学活用事例を調べる
第 15 回	まとめ	事前:第 14 回までの要点をまとめる
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度	
【履修条件】	2 年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目の内容を理解していること	
【関連科目】	2 年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目	
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)。	
【フィードバックの方法】	各回授業の冒頭で、リフレクションペーパーに記載された質問へのコメントと演習問題の解答を解説する。	
【テキスト】	保健統計・疫学(最新版)／福富和夫, 橋本修二／南山堂／978-4525053376 (保健医療統計学でも使用)	
【参考図書】	国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (公衆衛生学・保健医療統計学でも使用) シンプル衛生・公衆衛生学(最新版)／辻一郎, 上島通浩／南江堂／ISBN:978-4524203758 (公衆衛生学でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA／978-4896328585	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* がん疫学研究、フィールド研究、薬剤師の経験を生かして講義を実施する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

專 門 分 野

【科目名】	看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Nursing	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 加藤京里				
【担当教員】	* 加藤京里、* 管原清子				
【授業の概要】	看護学の学習を深めるために基盤となる知識を学ぶ。看護の歴史の変遷、看護理論を概観し、看護学の主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」を学習する。看護の対象となる人とその生活への考察を通して、看護専門職の役割と機能、活動の場を学習する。さらに、看護に関する法、専門職としての責務や倫理を学習する。今後、看護過程を学ぶ導入として、看護を実践するための思考過程を学習する。				
【キーワード】	看護の主要概念、看護の歴史、看護理論、看護の対象、看護の役割、看護の専門性、看護倫理				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護の主要概念を説明できる。 2. 看護の歴史の変遷を説明できる。 3. 代表的な看護理論の概要を説明できる。 4. 看護専門職の役割、機能を説明できる。 5. 看護に関する法、専門職としての責務や倫理の基礎知識を説明できる。 6. 看護とは何かについて自己の考えを表現することができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	ガイダンス、看護の語源(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 2 回	看護の定義(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 3 回	看護の主要概念 1(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 4 回	看護の主要概念 2(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 5 回	看護の歴史 1(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 6 回	看護の歴史 2(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 7 回	看護理論 1(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 8 回	看護理論 2(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 9 回	看護の対象(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 10 回	看護の役割と機能(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 11 回	看護の専門性と倫理 1(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 12 回	看護の専門性と倫理 2(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 13 回	看護を実践するための思考過程(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 14 回	看護を実践するための思考過程(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 15 回	まとめ(加藤京里)	事前:第 1 回目から第 14 回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				

【関連科目】	基礎看護技術 I、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習 I				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80% (DP1-2: 到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20% (DP2: 到達目標 1~3 に対応) で評価する。				
【フィードバックの方法】	事後課題はユニパの課題管理に提出とし、次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-03862-1 看護覚え書 / フロレンス・ナイチンゲール, 湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子他訳 / 現代社 / ISBN978-4-87474-142-9 看護の基本となるもの / バージニア・ヘンダーソン, 湯槇ます・小玉香津子訳 / 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-1996-6				
【参考図書】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2] 基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 (第 13・14 回授業に使用)				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション / デイバート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅰ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅰ	
【開講時期】	1年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*加藤京里				
【担当教員】	*加藤京里				
【授業の概要】	看護技術は、看護の目的を達成するための方法であり、看護独自の知識体系に基づいて、対象の安全・安楽・自立・個性性を目指した意識的・意図的な行為である。本科目では、的確な判断に基づいた看護を実践するために、看護実践に共通して必要となる基本的な看護技術と生活過程を整える看護技術の目的や方法を理解することができる。				
【キーワード】	日常生活援助、環境調整、感染防止、安全、安楽				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護技術を適切に実践するための要素を説明できる。 2. 感染防止に関する原則および安全管理の要点について説明できる。 3. 環境調整、食事、排泄、清潔・衣生活、活動・休息に関する基本的看護技術の目的・方法・留意点を説明できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義・一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。事前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	オリエンテーション(加藤京里) 安全確保の技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第2回	感染防止の技術(加藤京里) 環境調整技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第3回	活動・休息援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第4回	活動・休息援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第5回	清潔・衣生活援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第6回	食事援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第7回	排泄援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第8回	まとめ(加藤京里)	事前:第1回目から第7回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1~3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第1回から7回までの事後課題はユニパの課題管理に提出とし、次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3				

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護コミュニケーション論		【科目英語名】	Nursing Communication Theory	
【開講時期】	1年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*加藤京里				
【担当教員】	*加藤京里、*菅原清子、*三沢萌伽				
【授業の概要】	援助的人間関係を体系づけるコミュニケーションの理論・考え方を学び、看護実践者に求められるコミュニケーションの基本的な知識を理解する。さらに看護に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。				
【キーワード】	コミュニケーション 援助的人間関係				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践に求められるコミュニケーションの基本的な知識を説明できる。 2. 他者を理解し、援助的人間関係を構築するための方法を記述できる。 3. 自己のコミュニケーションについてリフレクションを行い、自己の課題を述べることができる。 4. 立場や意見の違いを尊重しながら自分の考えを他者に伝え、建設的に議論できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義・一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス・コミュニケーションとは(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第2回	コミュニケーション論(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第3回	コミュニケーションにおける基本的姿勢(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第4回	自己理解と他者理解(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第5回	看護におけるコミュニケーション(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第6回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第7回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第8回	まとめ(加藤京里)	事前:第1回目から第7回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80% (DP1-2: 到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20% (DP2: 到達目標 1~3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第1回から7回までの事後課題について、次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション / ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習 / フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅱ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅱ	
【開講時期】	1年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60時間
【科目責任者】	*加藤京里				
【担当教員】	*加藤京里、*管原清子、*三沢萌伽				
【授業の概要】	看護の対象の健康課題を解決するために必要な看護技術の目的や方法を理解し、日常生活援助技術、呼吸・循環を整える技術、侵襲を伴う排泄ケアを習得する。 看護師役と患者役の演習体験を通して、看護実践に必要な基本的姿勢と態度を身につける。				
【キーワード】	日常生活援助、診療の補助				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 感染予防のための基本技術、ならびに日常生活援助技術(環境調整、食事援助、排泄援助、活動・休息援助、清潔・衣生活援助)を身につけることができる。 2. 呼吸・循環を整える技術、苦痛緩和・安楽確保に関する基本技術を実施できる。 3. 侵襲を伴う排泄ケア(一時的導尿)を実施できる。 4. 看護実践に必要な基本的姿勢と態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行い、適宜グループワークを行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。原則講義・演習の1週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	オリエンテーション(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第2回	ベッドメイキング:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第3回	バイタルサインの観察1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第4回	バイタルサインの観察2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第5回	活動・休息援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第6回	体位変換、移乗・移送1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第7回	体位変換、移乗・移送2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第8回	環境調整技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第9回	リネン交換・環境整備1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第10回	リネン交換・環境整備2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第11回	清潔・衣生活援助技術(三沢萌伽)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第12回	洗髪1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第13回	洗髪2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第14回	全身清拭・寝衣の交換・整容1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第15回	全身清拭・寝衣の交換・整容2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第16回	全身清拭・寝衣の交換・整容3:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			

第 17 回	足浴: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 18 回	食事摂取の介助、口腔ケア 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 19 回	食事摂取の介助、口腔ケア 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 20 回	まとめ(担当者全員)	事前: 演習項目の復習を行う。 事後: 学修した技術の復習を行う。
第 21 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 22 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 23 回	無菌操作 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 24 回	無菌操作 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 25 回	創傷管理・罨法: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 26 回	酸素療法、吸引、吸入 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 27 回	酸素療法、吸引、吸入 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 28 回	一時的導尿 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 29 回	一時的導尿 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 30 回	まとめ(担当者全員)	事前: 演習項目の復習を行う。 事後: 学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ	
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 80%(DP3: 到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2: 到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の自己評価とする。指定の用紙で提出し、次回に授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3 看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6	
【参考図書】	適宜紹介する	
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅲ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅲ	
【開講時期】	1年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 管原清子				
【担当教員】	* 管原清子				
【授業の概要】	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱの既習内容をふまえて、看護の基本技術であるバイタルサインの観察、感染防止の技術、生体の機能障害の回復・緩和に関わる看護技術(呼吸・循環・体温を整える技術)を学修する。また、侵襲を伴う排泄ケアについて学修する。				
【キーワード】	バイタルサイン、感染防止、侵襲を伴う排泄ケア				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を適切に行うために必要な観察技術(バイタルサインの観察)を説明できる。 2. 感染防止に関わる基本的な知識・技術(無菌操作)を説明できる。 3. 酸素吸入療法、吸引、罨法の適応と実施時の留意点を説明できる。 4. 侵襲を伴う排泄ケア(導尿、浣腸)の適応と実施時の留意点を説明できる。 				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜グループワークを行う。原則講義の1週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	バイタルサインの観察1(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第2回	バイタルサインの観察2(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第3回	感染防止の技術(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。基礎看護技術Ⅰの「感染防止の技術」の復習を行う。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第4回	呼吸を整える技術(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第5回	循環・体温を整える技術(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第6回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第7回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第8回	まとめ(管原清子)	事前:第1回目から第7回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度				
【履修条件】	1年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。				
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ				
【評価方法】	開講回数2/3以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験80%(DP1-2:到達目標1~4に対応)、課題学習20%(DP2:到達目標1~4に対応)				
【フィードバックの方法】	第1回から7回までの事後課題はユニパの課題管理に提出とし、翌週の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3				

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜指示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護アセスメント演習		【科目英語名】	Nursing Health Assessment	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*管原清子				
【担当教員】	*管原清子、*加藤京里、*三沢萌伽、李佐知子(非常勤)、*山内豊明(非常勤)				
【授業の概要】	看護の対象となる人間を身体的側面からアセスメントするために必要となるフィジカルイグザミネーションの基本的な知識と技術を習得する。				
【キーワード】	ヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1.ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2.フィジカルイグザミネーションに必要な基本的な知識と技術を学び、実施できる。 3.フィジカルイグザミネーションによって得られた情報をアセスメントし、その内容を正しい用語を用いて記録できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。事前に演習要項を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス・看護アセスメント総論:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第2回	呼吸系のアセスメント:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第3回	循環系のアセスメント:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第4回	消化系のアセスメント:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第5回	呼吸系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第6回	循環系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第7回	運動系のアセスメント:講義(非常勤 李佐知子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第8回	消化系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第9回	感覚系・神経系のアセスメント:講義(非常勤 山内豊明)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。			
第10回	感覚系・神経系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第11回	感覚系・神経系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第12回	運動系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第13回	運動系のアセスメント:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の記録用紙を記載する。			
第14回	技術試験(担当者全員)	事前:学修した技術の復習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第15回	まとめ(管原清子)	事前:全単元の復習を行う。			

		事後:学修内容の復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	1 年次に開講された専門基礎分野および専門分野 I を履修していること。				
【関連科目】	基礎看護技術 I、基礎看護技術 II、基礎看護技術 III				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 70%(DP3:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 30%(DP2:到達目標 1~3 に対応)				
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の記録用紙への記載とする。次回に指定の用紙で提出とし、次々回に授業内でフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント / 熊谷たまき他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜指示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション / デイバート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。				
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護アセスメント方法論		【科目英語名】	Nursing Assessment Methodology	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*管原清子				
【担当教員】	*管原清子、*加藤京里、*三沢萌伽				
【授業の概要】	事例を用いて看護過程を展開することで、その人の健康と生活上の問題(看護問題)を明確にし、解決するための技術と思考過程を学修する。				
【キーワード】	看護過程 看護診断 クリティカルシンキング ゴードンの機能的健康パターン				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践のための思考過程および看護過程の構成要素を説明できる。 2. 事例を用いて看護に必要な情報の収集・分析、対象が抱える看護問題の明確化、優先順位の設定、看護問題を解決するために必要となる具体的な計画の立案について、論理的に展開できる。 3. 立案した計画の実施、評価、修正の方法について説明できる。				
【授業方法】	初回にガイダンスを行う。授業は講義および一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワーク、発表を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	看護過程講義1(看護過程とは)(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第2回	看護過程講義2(情報収集・アセスメント)(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第3回	看護過程講義3(看護問題の明確化)(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第4回	看護過程講義4(計画立案、実施、評価)(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第5回	事例展開1(個人及びグループワーク)(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第6回	事例展開2(個人及びグループワーク)(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第7回	発表(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第8回	まとめ(管原清子)	事前:第1回目から第7回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	1年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ				
【評価方法】	開講回数 2/3以上の出席が単位認定の前提である。 課題学習 100%(DP2 80%、DP3 20%:到達目標1~3に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	課題学習については、コメントを記入して返却する。 授業内容に関する質問や意見については、授業内で学生全員にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン / マージョリー・ゴードン 他 / 照林社 / ISBN978-4-7965-2124-6 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原書第12版 / T. ヘザー・ハードマン他 / 医学書院 /				

	ISBN978-4-260-04628-2				
【参考図書】	実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版／任和子／照林社／ISBN978-4-7965-2549-7				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅳ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅳ	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*管原清子				
【担当教員】	*管原清子、*加藤京里、*三沢萌伽				
【授業の概要】	与薬に関する知識、非経口的栄養摂取の知識、検査に関する知識を学修し、注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血を安全に実施する看護技術をモデル人形を用いて習得する。				
【キーワード】	注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 無菌操作の基礎知識を踏まえた上で滅菌物の取り扱いができる。 2. 経鼻経管栄養法の技術をモデル人形を用いて安全に実施できる。 3. 注射法の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 4. 静脈血採血の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 5. 演習を通して、看護師として求められる態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行い、適宜グループワークを行う。演習は学生同士やモデル等を用いて行う。原則、講義・演習の1週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	与薬の技術1:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第2回	与薬の技術2:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第3回	非経口的栄養摂取の援助:講義(管原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第4回	注射1(薬物の吸い上げ、皮下注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第5回	注射2(薬物の吸い上げ、皮下注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第6回	注射3(筋肉内注射、静脈内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第7回	注射4(筋肉内注射、静脈内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第8回	注射5(筋肉内注射、静脈内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第9回	検査に伴う技術1:講義(三沢萌伽)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第10回	検査に伴う技術2:講義(三沢萌伽)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第11回	経鼻経管栄養法:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第12回	経鼻経管栄養法:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、			

		び、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第13回	静脈血採血:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第14回	静脈血採血:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第15回	まとめ(担当者全員)	事前:演習項目の復習を行う。 事後:学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	2 年次前期までに開講された専門基礎分野および専門分野 I を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術 I、基礎看護技術 II、基礎看護技術 III	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 70%(DP3:到達目標 1~4 に対応)、課題学習 30%(DP2:到達目標 1~4 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の自己評価とする。次回に指定の用紙で提出とし、次回に授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護学[3]基礎看護技術 II / 任和子他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04212-3 看護がみえる 1 基礎看護技術 / 藤本真記子他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術 / 近藤一郎他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-734-2	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション / ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	<input type="checkbox"/> 【科目等履修生】 不可 <input type="checkbox"/> 【交換留学生】 不可

【科目名】	看護と倫理		【科目英語名】	Nursing Ethics	
【開講時期】	2年後期/編入4年後期	【必修区分】	必修/選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義・演習			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*山下早苗				
【担当教員】	*山下早苗				
【授業の概要】	社会の変化により人々の価値観は多様化している。そのため、看護職は日常の看護実践に伴う倫理的感受性を高め、倫理的に思考し行動する必要がある。本科目では、看護倫理の歴史の変遷を学び、看護倫理とは何かを考え、看護倫理における基準や概念など倫理的知識を持った思考力を養う。				
【キーワード】	道徳、看護倫理、倫理的感受性、倫理的知識、倫理的思考				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 看護倫理に関する知識を有している。 2. 看護専門職としての役割責任を考えることができる。 3. 倫理的課題について倫理的知識を持って思考できる。				
【授業方法】	教科書・配布資料を活用し授業を進める。また、毎回の授業で課題に対する討議を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	倫理と道徳	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第2回	倫理学の分類と看護倫理の歴史の変遷	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第3回	看護倫理に関係する重要な概念:和、コンパッション、ケアリング、専門職	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第4回	看護専門職としての役割責任:アドボカシー、協働、倫理綱領	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第5回	倫理的能力のある看護師とアサーション	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第6回	日常の看護実践における倫理的課題:パターナリズムとインフォームドコンセント、プライバシーと守秘義務	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第7回	看護研究における倫理	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:課題レポート			
第8回	まとめ	第1～7回までの学習内容の整理			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	専門領域の概論科目				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート70%(DP2:到達目標2・3に対応)、小テスト30%(DP1-2:到達目標1に対応) 課題レポートの評価基準と小テストの時期については初回で説明する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時に行う。 ・小テストの結果は授業時に開示する。				
【テキスト】	看護倫理 よい看護師への道しるべ 改訂第3版/編集 小西恵美子/南江堂/ISBN:978-4-524-22508-8				
【参考図書】	適宜紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として実務経験がある教員が、日常の看護実践における倫理的課題の経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)

【科目名】	基礎看護学実習 I		【科目英語名】	Practice in Basic Nursing I	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	* 加藤京里				
【担当教員】	* 加藤京里、* 菅原清子、* 三沢萌伽				
【授業の概要】	入院している患者の療養生活を知り、患者と看護師および看護師間のコミュニケーションを学び、看護の実際について援助場面の参加を通して理解を深める。				
【キーワード】	療養生活、療養環境、看護援助、コミュニケーション				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 入院している患者の療養生活を理解することができる。 2. 看護の実際を理解することができる。 3. 看護に必要とされるコミュニケーションの基本を学ぶことができる。 4. 看護を学ぶ学生としての態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回に学内オリエンテーションを行う。学内実習にて実習ガイダンス・技術演習等を行い、臨地実習に臨む。実習要項・実習記録・その他資料は、学内オリエンテーション・ガイダンスにて配布する。最終日には、実習のまとめとして成果発表会を行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
	1. 学内実習(実習ガイダンス・技術演習等) 2. 臨地実習 1) 実習する病院は原則 1 カ所とする。 2) 入院患者の療養生活を観察する。 3) 看護師とともに行動し、看護援助の見学および援助場面への参加をする。 4) 患者とのコミュニケーションを図る。 5) 実習後の振り返りをテーマに沿って行い、実習の学びをグループメンバーと共有する。 6) 実習成果をまとめ、発表する。			事前： 実習要項・実習記録を熟読する。 事前準備(課題、持参物、体調管理)を徹底する。 事後： 指定された課題学習に取り組む。 実習目標に対する達成度を評価して振り返りを行い、自己の課題を見出す。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、基礎看護技術 I、看護コミュニケーション論				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。実習評価表に基づき、総合的に行う(DP3 60%、DP1-2 40%:到達目標 1~4 に対応)。				
【フィードバックの方法】	提出物については、コメントを記入して返却する。 実習中や終了時において、担当教員と面談を行う。				
【テキスト】	看護学概論・基礎看護技術 I・看護コミュニケーション論で用いるテキスト				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の臨床経験を有する教員が、その経験を活かして実習に必要な指導を行う。				
【その他】	詳細は実習要項を参照のこと。 感染症拡大の影響により、臨地実習が行えない場合には、学内に切り替え、内容を一部変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護学実習Ⅱ		【科目英語名】	Practice in Basic Nursing Ⅱ	
【開講時期】	2年通年	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*管原清子				
【担当教員】	*管原清子、*加藤京里、*三沢萌伽				
【授業の概要】	健康障害をもつ対象に、看護師とともに基本的な看護援助を実践し、その意義を振り返り考察する。 また、患者を受け持ち、その対象が抱える看護問題を解決するために必要な看護援助を立案し、実施、評価する。				
【キーワード】	看護援助、看護過程、フィジカル・イグザミネーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 対象を理解するために、コミュニケーション技術、フィジカル・イグザミネーション技術を用いて情報を収集できる。 2. 対象に提供する看護援助の根拠を説明できる。 3. 受け持ち患者が抱える看護問題を抽出し、看護問題を解決するために必要となる計画を立案・実施・評価できる。 4. 看護職者としての態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にガイダンスを行う。 実習要項・実習記録・その他の資料はガイダンスで配布する。 最終日には実習のまとめを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
	1. 実習ガイダンス・技術演習等 2. 臨地実習(前半実習) 1) 病院・病棟オリエンテーションを受ける。 2) 毎日の行動計画を立案し実施する。 3) 看護師とともに患者への看護援助を実践する。 4) カンファレンスを行い実習の学びをグループメンバーと共有する。 3. 臨地実習(後半実習) 1) 毎日の行動計画を立案し実施する。 2) 受け持ち患者の情報を収集し、解釈する。 3) 受け持ち患者の看護問題を明らかにする。 4) 受け持ち患者の安全、安楽、自立を考えた看護計画を具体的に立案する。 5) 看護援助を実施し、評価する。 6) カンファレンスを行い実習の学びをグループメンバーと共有する。 4. 実習のまとめ	事前： 実習要項・実習記録を熟読する。既習の知識と技術を振り返り、不足している内容を補完する。 事後： 指定された課題学習に取り組む。必要時、実習記録の追加修正を行う。 実習目標に対する達成度を評価して振り返りを行い、自己の課題を見出す。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	1年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。 2年次前期に開講する「看護アセスメント演習」および「看護アセスメント方法論」を履修すること。				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護実習Ⅰ				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。 実習評価表に基づき、総合的に行う(DP3 60%、DP2 40%:到達目標1~4に対応)。				
【フィードバックの方法】	提出物については、コメントを記入して返却する。 実習中や終了時に、担当教員と面談を行う。				
【テキスト】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント方法論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲで用いるテキスト				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある】	*看護師の臨床経験を有する教員が、その経験を活かして実習に必要な指導を行う。				

教員による授業】					
【その他】	詳細は実習要項を参照のこと。 感染症拡大の影響等により臨地実習が行えない場合には、学内に切り替え、内容を一部変更することがある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	慢性看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Chronic Care Nursing	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*山田 紋子				
【担当教員】	*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*鈴木 郁美、*中岡 正昭、*長谷部 美紀				
【授業の概要】	慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などの慢性疾患を有する人々とその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護に関する学問である。本授業は、成人期を中心に、慢性疾患及び慢性期の治療を受けながら闘病・療養する人々とその家族を身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解し、可能な限りその人らしい生活と人生を送るための看護実践に必要な基礎的知識を修得することを目的としている。				
【キーワード】	成人期の特徴、看護過程の展開、健康問題と看護支援				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 成人期にある患者に対する看護過程の展開方法を理解できる。 3. 慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な主理論の概要を理解できる。 4. 代表的な慢性疾患を有する患者とその家族の特徴及び健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。				
【授業方法】	講義、小グループディスカッション				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス／ライフステージからみた成人期の特徴と健康問題 (山田紋子・林みよ子)	事前:テキストP.56-66を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第2回	成人期にある患者に対する看護過程の展開①(山田紋子)	事前:看護過程展開方法の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第3回	成人期にある患者に対する看護過程の展開②(山田紋子)	事前:第2回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第4回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論①(山田紋子)	事前:第1回で学んだ成人期の特徴の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第5回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論②(山田紋子)	事前:第4回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第6回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な理論(林みよ子)	事前:第4回・第5回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第7回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護① 内分泌疾患(前野真由美)	事前:糖尿病の病態・検査・治療の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第8回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護② 脳神経疾患(鈴木郁美)	事前:脳神経の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第9回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護③ 腎機能障害(林みよ子)	事前:腎臓の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第10回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護④ 肝機能障害(長谷部美紀)	事前:肝臓の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第11回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護⑤ 循環器・呼吸器疾患(中岡正昭)	事前:心臓と肺の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第12回	がん患者の看護①(山田紋子)	事前:テキストP.197-220、232-238を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第13回	がん患者の看護②(山田紋子)	事前:第12回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第14回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の家族への看護(林みよ子)	事前:テキストP.81-86を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第15回	まとめ(山田紋子)	事前:テキストや授業資料の総復習 事後:各自で期末試験対策に取り組む			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学の単位を取得していること				

【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 筆記試験 80% (DP1-2: 到達目標 1~4 に対応) と小テスト(3 回実施)20% (DP1-2: 到達目標 4 に対応) を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	授業中の質問については、その都度対応する。 小テストは、実施後に正解を提示する。				
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学 2～15／医学書院 【病態学のテキスト】 ・NANDA-I 看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院 【看護アセスメント演習のテキスト】 				
【参考図書】	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床活用事例でわかる中範囲理論／黒田裕子／日総研／ISBN978-4-7760-1908-4 ・その他、適宜、授業中に紹介する 				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	・【事前課題】に取り組んで授業に臨む。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(日本語による授業)

【科目名】	慢性看護援助論演習		【科目英語名】	Seminar in Chronic Care Nursing	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*山田 紋子				
【担当教員】	*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*鈴木 郁美、*中岡 正昭、*星 有紀、*長谷部 美紀 *植田 春美				
【授業の概要】	慢性看護学概論で学習した知識を基盤として学ぶ科目である。本授業は、成人期を中心に、慢性疾患及び慢性期の治療を受けながら闘病・療養する人々とその家族が質の高い生活を継続するために必要な看護実践の基礎的知識と技術を修得することを目的としている。				
【キーワード】	慢性疾患患者の看護過程、健康教育、退院支援、倫理的問題				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 成人期にある慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の健康問題を理解できる。 2. 代表的な慢性疾患の紙上事例患者の看護問題の抽出とそれを解決するための看護計画を立案できる。 3. 糖尿病の紙上事例患者に対する健康教育をロールプレイで実施できる。 4. 慢性疾患を有する患者とその家族に対するチームでの退院支援の方法と課題を理解できる。 5. 慢性疾患患者とその家族が直面する倫理的問題とその対応についての自己の考えを説明できる。				
【授業方法】	講義、小グループディスカッション、ロールプレイ				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス、慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の特徴と健康問題(山田紋子・林みよ子)	事前:テキストのP.2-34を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第2回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者事例の看護展開① 内分泌疾患(前野真由美)	事前:慢性看護学概論第2・3・7回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第3回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育方法の検討① (前野真由美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第4回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育方法の検討② (前野真由美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第5回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育のロールプレイ ①(前野真由美他)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第6回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育のロールプレイ ②(前野真由美他)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第7回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(1)(鈴木郁美)	事前:慢性看護学概論第2・3・8回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第8回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(2)(鈴木郁美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第9回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(3)(鈴木郁美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第10回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(1)(林みよ子)	事前:慢性看護学概論第2・3・9回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第11回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(2)(林みよ子)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第12回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(3)(林みよ子)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第13回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開④ 循環器・呼吸器疾患(中岡正昭)	事前:慢性看護学概論第11回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第14回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の退院支援 (植田春美)	事前:テキストP.26-34、44-47を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第15回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者とその家族の直面 する倫理的問題(植田春美)	事前:テキストP.35-43を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学の単位を取得していること				
【関連科目】	慢性看護学概論、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				

【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 紙上事例の看護展開記録 60% (DP2:到達目標 1~2・4~5 に対応)と事例患者の教育用パンフレット 40% (DP3:到達目標 2~3 に対応)を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	・提出物:3 月末までに返却する。 ・ロールプレイ:実施時に担当教員が口頭で助言する。				
【テキスト】	・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学 2~15／医学書院 【病態学のテキスト】 ・NANDA-I 看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院 【看護アセスメント演習のテキスト】				
【参考図書】	・臨床活用事例でわかる中範囲理論／黒田裕子／日総研／ ISBN978-4-7760-1908-4 ・その他、適宜、授業中に紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> E その他(ロールプレイ) <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	・特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	慢性看護学実習	【科目英語名】	Practice in Chronic Care Nursing
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	実習	【単位数】	2単位
【授業時間数】		【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*山田 紋子		
【担当教員】	*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*鈴木 郁美、*中岡 正昭、*星 有紀、*長谷部 美紀、*植田 春美		
【授業の概要】	実習は、概論及び援助論演習で学習した知識・技術を医療現場で活用しながら対象との直接的なかかわりを通して実践的に学び、これらの学びを通して看護職の役割および機能、多職種との連携の実際を学ぶ科目である。本授業では、援助的人間関係を築きながら、成人期あるいは老年期にある慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者とその家族を総合的に理解し、科学的根拠に基づく看護実践を展開するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。		
【キーワード】	慢性看護、援助的人間関係、対象の総合的理解、科学的根拠に基づく看護実践		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 ■DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解して看護問題を抽出できる。 2. 抽出した受け持ち患者の看護問題に対する看護計画を立案・実施・評価することができる。 3. 受け持ち患者とその家族と援助的人間関係を発展させることができる。 4. 実習での体験を通して看護職の役割・機能および多職種との連携・協働の必要性を説明できる。 5. 医療の現場で出会う矛盾や葛藤に対して建設的な意見を述べるができる。 		
【授業方法】	原則として1名の慢性疾患を有する患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、全体像の統合、看護計画の立案を行う。立案した看護計画に基づいてケアを実践し、看護過程の評価・修正を行う。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
1日目	実習内容と実習病棟のオリエンテーションを受ける。 受け持ち患者を決定し、情報収集を行う。	【事前課題】 1日目:慢性看護学概論・慢性看護援助論演習で学習した看護過程展開方法や理論・モデルの復習	
2日目	受け持ち患者に病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集しアセスメントを開始する。カンファレンスを行う。	2日目以降:学内日を除く毎日、行動計画を立案する。	
3日目	(学内日)収集した情報の整理、アセスメント、全体像の統合、看護問題の明確化を行う。	5日目:実習評価表に基づいて中間評価を行い、2週目の課題を明確にする。	
4日目	受け持ち患者に対して、病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、明確化した看護問題に対する看護計画を立案する。カンファレンスを行う。	9日目:記録用紙「看護過程・実習のまとめ」に看護要約を記録する。	
5日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践する。実践を評価し、アセスメント・全体像・看護計画の妥当性を検討し、必要に応じて修正する。カンファレンスを行う。	10日目:評価表の最終評価をする。	
6日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。	【事後課題】 その日の実習内容を振り返り、行動計画の評価と実習進度に応じた実習記録用紙に記録する。	
7日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。		
8日目	(学内日)看護過程の整理、実習のまとめにとりかかる。		
9日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。看護過程のまとめとして看護要約を作成する。カンファレンスを行う。		
10日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護過程の最終的な評価をする。最終カンファレンスと、評価面接を行う。		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習の単位を取得していること		
【関連科目】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学		
【評価方法】	全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。 「慢性看護学・急性期看護学評価表」100%(DP3、DP4:到達目標1~5に対応)に基づいて評価する。		
【フィードバックの方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・実践:実施後に担当教員あるいは実習指導者から口頭でコメントする ・実習記録:担当教員による記録へのコメントの記載あるいは口頭でコメント・助言する。 ・実習全体:実習終了後の評価面接で担当教員から口頭でコメント・助言する。 		

【テキスト】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習のテキスト ・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学 2～15／医学書院 ・NANDA-I 看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院				
【参考図書】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習の資料や紹介した書籍 実習時に適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が指導する				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	急性期看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Acute Care Nursing	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 林みよ子				
【担当教員】	* 林みよ子、* 山田紋子、* 中岡正昭、* 長谷部美紀				
【授業の概要】	急性期看護学とは、手術という身体侵襲を受ける人々や救命救急処置を要する人々とその家族を対象とし、身体侵襲を受けた時期から回復に至るまでの看護に関する学問である。本授業は、成人期を中心に、急性期にある人々とその家族を、身体的・心理的・社会的に統合された存在として、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を促進するための看護実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。				
【キーワード】	手術、救命救急、身体侵襲、回復過程、				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある人々とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 周手術期にある患者の健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。 代表的な手術を受ける患者の特徴・健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。 緊急度・重症度の高い患者の特徴・健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。 				
【授業方法】	講義				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス／急性期・周手術期にある人々の特徴(林みよ子)	事前:テキスト①P.2～7、199～203を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第2回	手術を受ける患者の看護①手術前の看護(林みよ子) (小テスト)	事前:テキスト①P.232～243を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第3回	手術を受ける患者の看護②手術中の看護(中岡正昭)	事前:テキスト①P.250～272を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第4回	手術を受ける患者の看護③手術後の看護(長谷部美紀) (小テスト)	事前:テキスト①P.311～329を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第5回	開腹術を受ける患者の看護(長谷部美紀)	事前:テキスト②P.299～305を読んでおく。 第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第6回	腹腔鏡下手術を受ける患者の看護(長谷部美紀)	事前:テキスト②P.306～307を読んでおく。 第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第7回	開胸術を受ける患者の看護(中岡正昭)	事前:テキスト②P.37～54、P.308～313を読んでおく。第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第8回	心臓手術・血管手術を受ける患者の看護(中岡正昭)	事前:テキスト②P.139～144、P.146～153を読んでおく。第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第9回	開頭術を受ける患者の看護(林みよ子)	事前:テキスト②P.393～407を読んでおく。 第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第10回	整形外科手術を受ける患者の看護(長谷部美紀)	事前:テキスト②P.419～421を読んでおく。 第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第11回	乳がん手術を受ける患者の看護(山田紋子)	事前:テキスト②P.59～69、P.70～73を読んでおく。第2～4回の授業の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第12回	クリティカルな状態にある患者の看護(中岡正昭)	事前:テキスト①P.178～191、P.334～355を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第13回	クリティカルな状態にある患者の家族の看護(林みよ子) (小テスト)	事前:テキスト①P.2、P.186、P.191、P.349を読んでおく。第12回の授業の復習			

		事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第 14 回	急性期における倫理的課題(山田紋子)	事前:テキスト①P.223～225、P.237～239 を読んでおく 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第 15 回	まとめ	事前:これまでの授業内容を復習する 事後:各自で期末試験準備をする			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護学援助論演習、病態学の単位を取得していること。				
【関連科目】	慢性看護学概論、慢性看護学援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 期末試験 80%(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、小テスト 20%(DP1-2:到達目標 2～4 に対応)として総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	小テスト:実施後に正解を提示し次回授業時に解答用紙を返却する。				
【テキスト】	① 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護総論/池上徹他/医学書院【病態学のテキスト】 ② 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護各論/北川雄光他/医学書院【病態学のテキスト】 ③ 成人看護学 成人看護技術/野崎真奈美 他/南江堂/ISBN978-4-524-22954-3				
【参考図書】	講義の進行度に添って紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(日本語による授業)

【科目名】	急性期看護援助論演習	【科目英語名】	Seminar in Acute Care Nursing
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	演習	【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 林みよ子		
【担当教員】	* 林みよ子、* 山田紋子、* 前野真由美、* 鈴木郁美、* 中岡正昭、* 星有紀、* 長谷部美紀、* 植田春美、* 予定教員		
【授業の概要】	急性期看護学概論で学習した知識を基に、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人々とその家族に対して、必要な看護援助の実際を学ぶ。特に、健康問題別の看護過程の展開方法、手術前後に必要な看護援助、バイタルサインズの異常に対する臨床判断について学習する。		
【キーワード】	急性期看護、周術期看護、救急救命、バイタルサインズの異常		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 事例患者の手術前・手術後のアセスメントを記述できる。 2. モデル人形で設定された患者のバイタルサインズの異常を判断した結果を説明できる。 3. 事例患者の術後1日目の看護援助をデモンストレーションできる。		
【授業方法】	講義、小グループディスカッション、デモンストレーション		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス 乳がん手術を受ける患者の事例展開①(山田紋子)	事前: 急性期看護学概論を復習しておく 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第2回	乳がん手術をける患者の事例展開②(山田紋子)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第3回	急性期にある患者の在宅への移行支援(林みよ子)	事前: テキスト①P.360～364を読んでおく 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第4回	事例患者の術前アセスメント(林みよ子、担当教員全員)	事前: 急性期看護学概論・第2回・第5回の授業を復習しておく 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第5回	事例患者の術前看護援助①(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第6回	事例患者の術前看護援助②(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時の提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第7回	事例患者の術後アセスメント(林みよ子、担当教員全員)	事前: 急性期看護学概論・第3回・第5回の授業を復習しておく 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第8回	事例患者の術後看護援助①(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第9回	事例患者の術後看護援助②(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第10回	臨床判断シミュレーション演習①(林みよ子、担当教員全員)	事前: 急性期看護学概論・第12～13回の授業を復習しておく 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第11回	臨床判断シミュレーション演習②(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第12回	臨床判断シミュレーション演習③(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第13回	技術習得確認統合演習①(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第14回	技術習得確認統合演習②(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
第15回	技術習得確認統合演習③(林みよ子、担当教員全員)	事前: 授業時に提示する課題に取り組む 事後: 授業で学んだ内容をまとめる	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、病態学の単位を取得していること。		

【関連科目】	急性期看護学概論、慢性看護学概論、慢性看護学援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 紙上事例の看護展開記録 20% (DP2、DP3: 到達目標 1 に対応)、技術習得確認統合演習 80% (DP2、DP3: 到達目標 2~3 に対応) として総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	・各グループの演習実施状況に応じて適時、担当教員がフィードバックを行う。 ・技術習得確認統合演習の評価は 8 月上旬に返却する。				
【テキスト】	① 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護総論／池上徹他／医学書院【病態学のテキスト】 ② 系統看護学講座-別巻・臨床外科看護各論／北川雄光他／医学書院【病態学のテキスト】 ③ 成人看護学 成人看護技術／野崎真奈美 他／南江堂／ISBN978-4-524-22954-3				
【参考図書】	演習の進行度に添って紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> E その他(デモンストレーション) <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	急性期看護学実習		【科目英語名】	Practice in Acute Care Nursing	
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	* 林みよ子				
【担当教員】	* 林みよ子、* 山田紋子、* 前野真由美、* 鈴木郁美、* 中岡正昭、* 星有紀、* 長谷部美紀 * 植田春美、* 予定教員				
【授業の概要】	本科目は、急性期看護学概論・急性看護援助論演習で学習した知識・技術を医療現場で活用しながら対象との直接的なかかわりを通して、実践的に学び、これらの学びを通して看護職の役割および機能、多職種との連携の実際を学ぶ。本授業では、成人期あるいは老年期にある周手術期・急性期の患者とその家族を理解し、科学的根拠に基づく看護実践を展開するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。				
【キーワード】	急性期看護、援助的人間関係、対象の総合的理解、科学的根拠に基づく看護実践				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 ■DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解して看護問題を抽出できる。 2. 抽出した看護問題に対する看護計画を立案・実施し、評価することができる。 3. 受け持ち患者とその家族を尊重した関わりができ、援助的人間関係を発展させることができる。 4. 実習での体験を通して看護職の役割・機能および多職種との連携・協働の必要性を説明できる。 5. 医療の現場で出会う矛盾や葛藤に対して建設的な意見を述べるができる。 				
【授業方法】	原則として、外科系病棟において1名の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、全体像の統合、看護計画立案を行い、立案した看護計画に基づいてケアを実践し、看護過程を評価・修正する。また、手術室や集中治療室における見学実習を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
	<p>1日目 実習内容と実習病棟のオリエンテーションを受ける。受け持ち患者を決定し、情報収集を行う。手術室と集中治療室の見学をする。</p> <p>2日目 受け持ち患者に病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集し、アセスメントを開始する。カンファレンスを行う。</p> <p>3日目 (学内日) 収集した情報の整理、アセスメント、全体像の統合、看護問題の明確化を行う。</p> <p>4日目 受け持ち患者に対して、術後経過に応じた病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、明確化した看護問題に対する看護計画を立案する。カンファレンスを行う。</p> <p>5日目 立案した看護計画に沿ってケアを実践する。実践を評価し、アセスメント・全体像・看護計画の妥当性を検討し、必要に応じて修正する。カンファレンスを行う。</p> <p>6日目 立案した看護計画のケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。</p> <p>7日目 立案した看護計画のケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。</p> <p>8日目 (学内日) 看護過程を整理する</p> <p>9日目 立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。看護過程のまとめとして看護要約を作成する。カンファレンスを行う。</p> <p>10日目 立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護過程の最終的な評価をする。最終カンファレンスと、評価面接を行う。</p>	<p>【事前課題】</p> <p>1日目:急性期看護学概論・急性期看護援助論演習で学習した看護過程展開方法や周手術期看護の復習</p> <p>2日目以降:学内日を除き、行動計画を立案する。受け持ち患者の手術を見学する日は手術室行動計画も立案する。</p> <p>5日目:実習評価表に基づいて、中間評価を行い、以降の課題を明確にする。</p> <p>10日目:評価表の最終的な自己評価をする。</p> <p>【事後課題】</p> <p>その日の実習内容を振り返り、行動計画の評価と実習進度に応じた看護過程の展開を行う。</p>			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	急性期看護学概論、急性期看護援助論演習の単位を取得していること。				
【関連科目】	急性期看護学概論、急性期看護援助論演習、慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学				
【評価方法】	全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。				

	「慢性看護学・急性期看護学実習評価表」100% (DP3、DP4:到達目標 1~4 に対応)に基づいて評価する				
【フィードバックの方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・実践のフィードバック:実施後に担当教員あるいは実習指導者から口頭でコメントする。 ・実習記録のフィードバック:担当教員による記録へのコメント記載あるいは口頭でコメントする。 ・実習全体のフィードバック:実習終了後の評価面接で担当教員から口頭でコメントする。 				
【テキスト】	急性期看護学概論・急性看護援助論演習のテキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座-別巻・臨床外科看護総論／池上徹他／医学書院 【病態学のテキスト】 ・系統看護学講座-別巻・臨床外科看護各論／北川雄光他／医学書院 【病態学のテキスト】 ・成人看護学 成人看護技術／野崎真奈美 他／南江堂／ISBN978-4-524-22954-3 				
【参考図書】	急性期看護学概論・急性看護援助論演習の資料や紹介した書籍 その他、実習時に適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 急性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学概論	【科目英語名】	Introduction to Gerontological Nursing
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 成瀬早苗		
【担当教員】	* 成瀬早苗		
【授業の概要】	高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、これらに関する基礎的知識を修得すること目的としている。		
【キーワード】	加齢変化、高齢者の健康、高齢者の生活		
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 加齢による影響や老年期の特徴から高齢者を理解し説明できる。 2. 高齢者をとりまく社会、保健・医療・福祉制度、様々な生活の場を説明できる。 3. 高齢者看護の特性、諸理論、倫理について説明できる。 4. 高齢者看護の基本を理解し、多職種連携における看護職の役割を説明できる。 5. 高齢者の健康と疾患について理解し、老年看護学の視点を説明できる。		
【授業方法】	講義・課題学習を併用して授業をすすめる。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	授業ガイダンス、課題説明(生活史インタビュー課題) 高齢者の理解①高齢者とは、高齢者の特徴と理解、高齢者の健康、高齢者とQOL、経済状態	事前にテキスト①1(1~4)を通読 事後は、ノート等に整理	
第2回	高齢者の理解②加齢に伴う変化:身体的変化/各臓器の生理的・機能的変化	事前にテキスト①1(5)を通読 事後は、ノート等に整理	
第3回	高齢者の理解③高齢者の加齢に伴う心理的・社会的変化	事前にテキスト①1(5)を通読 事後は、ノート等に整理	
第4回	高齢者のヘルスプロモーション:高齢者の健康増進、生活習慣病予防、転倒予防、認知症予防、健康増進プログラム	事前にテキスト①5(1~5)を通読 事後は、ノート等に整理	
第5回	高齢者をとりまく社会①高齢者の生活と家族、生活する場、高齢者を支える制度	事前にテキスト①2(1~3)を通読 事後は、ノート等に整理	
第6回	高齢者をとりまく社会②高齢者を支える社会資源 地域包括ケア、在宅、介護保険制度、介護保険サービス	事前にテキスト①2(4)3(1~5)を通読 事後は、ノート等に整理	
第7回	高齢者看護の基本①高齢者看護の特性、諸理論、倫理	事前にテキスト①4(1~3)を通読 事後は、ノート等に整理	
第8回	終末期の看護:高齢者の死と医療・ケア/終末期看護の実践/看取りを終えた家族への看護	事前にテキスト②4(1~4)を通読 事後は、ノート等に整理	
第9回	高齢者看護の基本③高齢者看護におけるチームアプローチ、高齢者のリスクマネジメント、災害時の高齢者看護	事前にテキスト①4(6~8)を通読 事後は、ノート等に整理	
第10回	治療を受ける高齢者の看護①薬物療法/手術療法/リハビリテーション/診察・検査/入院/退院/行動制限	事前にテキスト②3(1~7)を通読 事後は、ノート等に整理	
第11回	高齢者看護の基本② 高齢者のフィジカルアセスメント、高齢者によくみられる疾患:高血圧、心不全、COPD、肺炎、パーキンソン病、がん	事前にテキスト①4(4~5)、②1-6、1-7を通読 事後は、ノート等に整理	
第12回	高齢者看護の基本③ 高齢者によくみられる疾患:骨粗鬆症・骨折・脳卒中・白内障	事前にテキスト②1-5(2~3)1-6(5)を通読 事後は、ノート等に整理	
第13回	認知症・うつ病・せん妄の看護①認知症/うつ病/せん妄	事前にテキスト②2(1~3)を通読 事後は、ノート等に整理	
第14回	認知症・うつ病・せん妄の看護②中核症状、行動・心理症状(BPSD)の対応と看護、家族の支援、非薬物介入/支援/ケア	事前にテキスト②2(1~3)を通読 事後は、ノート等に整理	
第15回	まとめ	生活史インタビュー課題提出	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	特になし		

【関連科目】	老年看護援助論、老年看護学演習、老年看護学実習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 提示される課題の提出を必須とする。筆記試験 80% (DP1-2:到達目標 1~5 に対応)、課題学習 20% (DP5:到達目標 1 に対応)により総合して評価する。課題学習は、ルーブリックを用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	課題:高齢者の生きてきた社会・過程、生活史インタビュー聴取で学んだことを演習や実習で活かす。 リアクションペーパーの質問には、講義中に説明、または teams でコメントする。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7840-3 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7841-0				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして講義を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護援助論	【科目英語名】	Gerontological Nursing
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 成瀬早苗		
【担当教員】	* 成瀬早苗、* 佐藤理乃、* 宮澤典子		
【授業の概要】	高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、健康問題や日常生活活動に何らかの援助が必要な高齢者および家族に対し望む生活を安全に送るための看護援助を修得すること目的としている。		
【キーワード】	高齢者ケア、高齢者の健康マネジメント、高齢者の生活を支える看護		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6		
【到達目標】	1. 加齢や疾患により健康障害が生じた高齢者の生活機能を整える看護が説明できる。 2. 健康障害をふまえ、高齢者およびその家族への看護援助並びに援助技術について説明できる。 3. 高齢者のもてる力(強み)に着眼し、安全・安楽、その人らしさを追求した効果的な看護を展開するための知識を修得できる。		
【授業方法】	教科書、配布資料を用いて授業をすすめる。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	授業ガイダンス 高齢者の生活を支える看護①食生活を支える看護(佐藤理乃)	事前にテキスト②1-1を通読 事後は、ノート等に整理	
第2回	高齢者の生活を支える看護②排泄を支える看護(佐藤理乃)	事前にテキスト②1-2を通読 事後は、ノート等に整理	
第3回	高齢者の生活を支える看護③清潔・衣生活を支える看護 (成瀬早苗)	事前にテキスト②1-3を通読 事後は、ノート等に整理	
第4回	高齢者の生活を支える看護④活動と休息を支える看護 (成瀬早苗)	事前にテキスト②1-4を通読 事後は、ノート等に整理	
第5回	高齢者の生活を支える看護⑤歩行・移動を支える看護 (宮澤典子)	事前にテキスト②1-5を通読 事後は、ノート等に整理	
第6回	高齢者の生活を支える看護⑥ポジショニングと褥瘡予防 (宮澤典子)	事前にテキスト②1-5を通読 事後は、ノート等に整理	
第7回	高齢者の生活を支える看護⑦高齢者の意欲を支える看護 (成瀬早苗)	事前にはテキスト②を通読 事後は、ノート等に整理	
第8回	まとめ		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	老年看護学概論の履修		
【関連科目】	老年看護学概論、老年看護学演習、老年看護学実習		
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 筆記試験 100% (DP1-2: 到達目標 1~3 に対応) で評価する。		
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーの質問には、次週講義で説明、または teams でコメントする。		
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害/堀内ふき他/メディカ出版/978-4-8404-7840-3 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践/堀内ふき他/メディカ出版/978-4-8404-7841-0		
【参考図書】	適宜紹介する		
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	* 高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして講義を担当する。		
【その他】	特になし		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
		【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学演習	【科目英語名】	Seminar in Gerontological Nursing
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	演習	【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*宮澤典子		
【担当教員】	*宮澤典子、*成瀬早苗、*佐藤理乃		
【授業の概要】	<p>高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すことは、これからの高齢化社会で我々が生活をしていく上で不可欠なものである。それと同時に、看護や医療に従事する人材には、それらに関する知識や理解は欠かせないものである。本授業は、高齢者及びその家族を対象とした事例展開を通じて、老年看護特有の看護援助方法並びに援助技術を学ぶ。また、様々な健康レベルにある高齢者について理解を深め、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得すること目的としている。</p>		
【キーワード】	高齢者の理解、高齢者を支える技術、高齢者観		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う心身機能の変化、特徴的な疾病や病態を根拠に基づいたケア・評価方法を説明できる。 2. 健康障害の状態にある高齢者のもてる力(強み)に着目し、生活を支える看護を実践・評価できる。 3. 高齢者を取り巻く倫理的課題について考え、看護師としての倫理観を養うことができる。 		
【授業方法】	講義、グループディスカッション、演習、課題学習を併用して授業をすすめる。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	<p>授業ガイダンス</p> <p>高齢者の日常生活を支える看護 コミュニケーションのアセスメントと看護 ①: 高齢者とのコミュニケーションの原則、コミュニケーション能力のアセスメント(成瀬早苗)</p>	<p>既習内容を復習し、テキスト①6-1 通読 講義後ノート等で整理</p>	
第2回	<p>高齢者の日常生活を支える看護 コミュニケーションのアセスメントと看護 ②: 状態・状況に応じたコミュニケーションの方法、老年看護でよく使用されコミュニケーション技法(成瀬早苗)</p>	<p>既習内容を復習し、テキスト①6-1、②2-4、2-5 を通読 講義後ノート等で整理</p>	
第3回	入院から退院までの高齢者のケアの実際(CNS 特別講師)	既習内容を復習し、講義後ノート等で整理	
第4回	事例による高齢者看護①: 情報収集、気づきの図(佐藤理乃)	<p>既習内容を復習し、テキスト②5を通読 講義後情報収集シート、図を提出</p>	
第5回	事例による高齢者看護②: アセスメント方法とその視点(佐藤理乃)	<p>既習内容を復習し、テキスト②5を通読 講義後アセスメントシートを提出</p>	
第6回	事例による高齢者看護③: 看護問題の抽出と看護計画の立案(宮澤典子)	<p>既習内容を復習し、テキスト②5を通読 講義後看護問題シートと看護計画を提出</p>	
第7回	老年看護でよく使用される評価法①: 高齢者の身体評価(FIM、IADL)(宮澤典子)	<p>既習内容を復習し、テキスト ②3を通読 講義後ノート等で整理</p>	
第8回	老年看護でよく使用される評価法②: 高齢者の認知機能評価(長谷川式スケール、MOCA、MMSE)(宮澤典子)	<p>既習内容を復習し、テキスト ②2を通読 講義後ノート等で整理</p>	
第9回	事例による高齢者看護④: 立案した看護計画に基づく援助の実践、評価とSOAP(宮澤典子)	<p>既習内容を復習し、テキスト②5を通読 援助実践の準備、講義後実践の振り返り</p>	
第10回	高齢者の排泄演習(佐藤理乃)	<p>既習内容、テキスト②1-2を復習 講義後、課題を提出</p>	
第11回	高齢者疑似体験(佐藤理乃)	<p>既習内容を復習し、テキスト①7-2 を通読 体験後課題レポート提出</p>	
第12回	老年看護でよく使用される看護技術: 口腔ケア、ハンドマッサージ(宮澤典子)	<p>既習内容を復習し、テキスト①1-3、1-4 を通読 Nursing Skills の事前学習 演習後課題レポート提出</p>	
第13回	高齢者を取り巻く倫理的課題: 身体拘束についての検討(成瀬早苗)	<p>既習内容を復習し、テキスト①4-2 ②3-7 を通読 身体拘束に関する論文を精読 ディスカッション後課題レポート提出</p>	
第14回	老年看護実習について①リハビリテーション病院、療養病床、老人保健施設、通所サービス(成瀬早苗)	<p>既習内容を復習し、テキスト①3-3、3-5 ②3-4、5-7、5-9を通読 講義後ノート等で整理</p>	

第 15 回	まとめ	実習前アンケートの記載			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	老年看護学概論、老年看護援助論の単位を修得していること				
【関連科目】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学実習				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題学習 80% (DP2: 到達目標 1、3 に対応)、演習実践 20% (DP3: 到達目標 2 に対応) を総合して評価する。 評価基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーの質問には、講義中に説明、または teams でコメントする。 課題に対して講義中に解説する。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7840-3 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7841-0				
【参考図書】	生活機能から見た老年看護過程 病態・生活機能関連図／医学書院／978-4260042741 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術／メヂカルフレンド社／978-4839216924 根拠と事故防止からみた老年看護技術／医学書院／978-4260043267				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 高齢者看護の経験のある教員が実務経験を生かして演習を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	老年看護学実習	【科目英語名】	Practice in Gerontological Nursing
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	実習	【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*成瀬早苗		
【担当教員】	*成瀬早苗、*佐藤理乃、*宮澤典子		
【授業の概要】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習での学びを基盤として、高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化や老年期に生じやすい健康問題を持ちながら生活する高齢者を理解し、対象に応じた看護実践能力を養う。あらゆる生活の場や高齢者の理解を深め、望む生活を継続するための看護のあり方、高齢者を中心とした多職種連携および看護の役割について学び、高齢者観を養う。		
【キーワード】	健康障害、療養生活支援、もてる力		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 ■DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化及び健康障害を持つ高齢者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に説明できる。 2. 対象者に合わせたコミュニケーションや生活援助を通して、高齢者と円滑な関係を築くことができる。 3. 加齢や健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解でき、高齢者のもてる力をふまえた上で、生活機能の維持・回復・再構築を目標にした看護援助を計画・実践し、評価できる。 4. 保健医療福祉にかかわる多職種との連携・社会資源活用の必要性を理解し、看護師の役割について考察できる。 5. 様々な高齢者の生活の場における看護を通して自己の高齢者観を述べるができる。 6. 看護学生としての自覚と責任のある態度をとり、主体的に実習に臨むことができる。 		
【授業方法】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期リハビリテーション病棟、療養病床、介護老人保健施設のいずれかの施設において、高齢者1名を受け持ち、看護を実践する。対象者の生活史・望む生活を把握し、「できること・していること」に着目し、個別性を理解する。対象者の個別性と健康障害を理解し、看護計画を立案し、生活機能を維持しながら自立性や症状緩和を考慮し、安全・安楽な看護実践を行う。 2. 介護老人保健施設(通所リハビリテーション)、において利用者1名を受け持ち、高齢者の望む生活の継続に向けた社会資源と看護の実際について学ぶ。 3. 実習での学びは、教員や指導者からの助言や指導を受け、学生間の討議や発表を通して深める。 		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院または介護老人保健施設 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、受け持ち高齢者の紹介 2) 受け持ち高齢者に、看護計画に沿った看護の実施 2. 介護老人保健施設(通所リハビリテーション)2日間 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、受け持ち利用者の紹介 2) 実習行動計画の立案・実施 3) 高齢者ケア・援助の実施・見学 3. カンファレンス：学生主体にテーマを設定し、討議 4. 学内実習：計画の立案・ケアの準備、実習の学びの発表 	<p>老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習の復習をする。</p> <p>課題：実習施設の機能、介護保険制度、介護保険サービス、多職種と利用者・家族との関係性、施設の違いについて、老年ノートを活用し学修する。対象者の疾患、薬物療法、看護について調べる。ケア実践前に、Nursing Skillsを視聴し事前学習を行う。実習要領を参照し、実習記録を提出する。</p>	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度		
【履修条件】	老年看護学演習の単位を取得していること		
【関連科目】	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学演習		
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。実習評価表100%(DP3、DP5:到達目標1~5に対応)に基づき、総合的に行う。		
【フィードバックの方法】	実習期間中に個人面談を行い、対応する。		
【テキスト】	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7840-3 ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者の実践／堀内ふき他／メディカ出版／978-4-8404-7841-0		
【参考図書】	既学習で用いたテキストおよび資料		
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	*高齢者看護の経験を有する教員が実務経験を生かして実習全般を担当する。		
【その他】	特になし		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
		【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Women's Health and Maternal Nursing	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 中川有加				
【担当教員】	* 中川有加、* 福島恭子、* 大和田裕美、* 池田美音、* 予定教員、* 竹原啓(非常勤)				
【授業の概要】	ヒューマン・セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツなどの母性看護学に関連する理論や概念を学び、女性を尊重したケアについての理解を深める。その上で、ライフステージ各期(思春期・成熟期・更年期)における健康課題と看護や女性とその家族を取りまく社会問題について、セルフケアやメディアリテラシーを踏まえて学び自己の考えを構築できる。				
【キーワード】	ヒューマン・セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、女性のライフサイクル				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 母性看護学の対象とケアの場について説明できる。 2. 女性生殖器の解剖学的構造や女性の性周期(基礎体温の変化、ホルモン周期、排卵周期)について説明できる。 3. セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツについて説明できる。 4. 女性のライフステージ各期(思春期・成熟期・更年期)における健康課題と看護について説明できる。 5. 女性とその家族を取りまく社会問題に着目し、意見を述べるができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ヒューマン・セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第2回	女性性器の解剖学的構造、女性の性周期、月経機序、月経困難症、月経前症候群、性感染症(非常勤講師)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第3回	女性や家族を取り巻く社会、少子化、母子保健政策(中川有加・福島恭子・大和田裕美・池田美音・予定教員)	事前:提示した課題に関する文献、新聞記事、図書等を検索し準備する。 事後:提示した課題に関するレポートを作成する。			
第4回	ライフステージ各期における健康とケア:思春期(池田美音)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第5回	ライフステージ各期における健康とケア:成熟期(大和田裕美)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第6回	ライフステージ各期における健康とケア:更年期と老年期(福島恭子)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第7回	地域の助産師活動の実際(ゲストスピーカー)	事前:地域の母子の生活について予習する。 事後:講義内容をふまえて自己の考えをリアクションペーパーにまとめる			
第8回	まとめ	事前:全ての講義の復習を行う。 事後:自己課題に対する復習を行い母性看護援助論Ⅰの準備をする			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 各講義担当の教員別の筆記試験 80%(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)、女性や家族を取り巻く社会レポート 20%(DP5:到達目標 5 に対応)から評価する。レポートについては、ルーブリック評価表を配布する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニパを用いて回答する。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル改訂第3版/齋藤いずみ・長谷川ともみ・三隅順子/南江堂/ISBN978-4-524-22979-6 看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子/南江堂/ISBN978-				

	4-524-23754-8				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 医師、助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護援助論 I		【科目英語名】	Maternal and Newborn Nursing I	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 福島恭子				
【担当教員】	* 中川有加、* 福島恭子、* 大和田裕美、* 池田美音、* 予定教員、* 新谷光央(非常勤)				
【授業の概要】	周産期にある対象への看護実践の根拠となる基本的知識を習得する。周産期にある女性やこども(胎児・新生児)の理解として、身体的変化や異常について学ぶ。また、母乳育児の意義や世界的な指針、母子相互作用の概念を学ぶことを通して、母子を 1 組で見ることの大切さや家族中心のケア(Family-centered Care)についての理解を深める。さらに、周産期の死別に対するグリーフケアを学ぶことを通して、危機的状況にある家族への支援のあり方について考えることができる。				
【キーワード】	周産期、母乳、母子相互作用、グリーフケア				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 妊娠・分娩・産褥期の女性の身体的変化および胎児の成長発達、新生児の生理的変化・成長発達について理解することができる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常、異常について理解することができる。 3. 母乳育児に関する歴史・世界的な指針・意義、母子相互作用の概念について理解することができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	妊娠の女性の身体的変化(妊娠の成立、妊娠経過)、胎児の成長発達(新谷光央)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 2 回	分娩期の女性の身体的変化(正常分娩機転、分娩の 3 要素、陣痛発生機序)(新谷光央)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 3 回	妊娠・分娩の異常:妊娠期の異常、胎児異常、分娩期の異常、帝王切開術(新谷光央)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 4 回	産褥期の女性の身体的変化(進行性変化、退行性変化)、身体的異常(福島恭子)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 5 回	母子相互作用と母乳育児(大和田裕美)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 6 回	新生児の胎外生活適応過程、生理的変化、成長発達、新生児の異常(池田美音)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 7 回	周産期に関わる倫理(中川有加・予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第 8 回	まとめ	事後:自己課題に対する復習を行い母性看護援助論 II の準備をする。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	母性看護概論				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 筆記試験 100%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)を実施し評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニバ機能を用いて回答する。				
【テキスト】	病態・治療論[13]産科婦人科疾患(看護学 Nice)/百枝幹雄他/南江堂/ISBN978-4-524-23754-8 母性看護学 I 概論・ライフサイクル/斎藤いずみ他編集/南江堂/ISBN978-4524229796 母性看護学 II マタニティサイクル/大平光子他編集/南江堂/ISBN978-4524228881				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 医師、助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識を講義する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護援助論Ⅱ		【科目英語名】	Maternal and Newborn Nursing II	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 中川有加				
【担当教員】	* 中川有加、* 福島恭子、* 大和田裕美、* 池田美音、* 予定教員				
【授業の概要】	妊娠・分娩・産褥・新生児各期にある女性と胎児・新生児の身体的・心理的・社会的変化を理解し、正常に経過するための援助方法を学ぶ。また、女性のセルフケア能力と新生児の適応能力を引き出すことにより健康の維持・増進をはかる支援方法について学ぶ。事例を用いてウェルネスの視点からアセスメント、看護診断、看護計画立案を行い看護過程を展開できる。				
【キーワード】	周産期、ウェルネス、看護過程				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期にある対象の身体的・心理的・社会的変化を理解し、健康状態の診査、維持・増進の方法が説明できる。 2. 新生児の生理学的特徴を踏まえ、子宮外生活への適応過程について説明できる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期に出現頻度の高い合併症および正常からの逸脱を示す症状を述べられる。 4. 産褥期の事例を用いて、ウェルネスの視点で1組の母子の看護過程を展開できる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ウェルネス看護診断(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第2回	妊娠期の看護(福島恭子)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第3回	分娩期の看護①(大和田裕美)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第4回	分娩期の看護②(大和田裕美)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第5回	新生児の看護(池田美音)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第6回	産褥期の看護①母乳育児(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第7回	産褥期の看護②帝王切開後の褥婦のケア(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容の復習をする。			
第8回	看護過程の展開①(大和田裕美)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第9回	看護過程の展開②(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第10回	看護過程の展開③(福島恭子)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第11回	看護過程の展開④(池田美音)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第12回	看護過程の展開⑤(中川有加)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第13回	看護過程の展開⑥(予定教員/池田美音)	事前:教科書の該当部分を確認する。 事後:講義内容をふまえて看護過程の展開を行う。			
第14回	地域における母子支援活動(ゲストスピーカー)	事前:地域母子支援活動について予習をする。			

		事後：講義内容をふまえて自己の考えをレポートにまとめる。			
第 15 回	まとめ	事前：全ての講義の復習を行う。 事後：看護過程の展開をまとめて、母性看護学臨地実習の準備をする			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰの単位を取得していることを履修条件とする。				
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護学演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 各講義担当の教員別の筆記試験 70%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、看護過程の展開 30%(DP2:到達目標 4 に対応)から評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容に関する質問については、講義またはユニバを用いて回答する。看護過程の展開は、教員が添削し、臨地実習前に個別にフィードバックを行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NICE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル改訂第 3 版／大平光子・井上尚美・大月恵理子・佐々木くみ子・林ひろみ／南江堂／ISBN978-4-524-22888-1 看護学テキスト NICE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子／南江堂／ISBN978-4-524-23754-8				
【参考図書】	講義の中で適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 助産師として実務経験のある教員が周産期における基本的知識と看護を講義する。				
【その他】	なし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	母性看護学演習		【科目英語名】	Seminar in Maternal Nursing	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 福島恭子				
【担当教員】	* 中川有加、* 福島恭子、* 大和田裕美、* 池田美音、* 予定教員				
【授業の概要】	周産期看護を実践するために必要なフィジカルアセスメント、およびケア技術の演習を行い、看護の実践能力を身につける。そのために、褥婦および新生児のフィジカルアセスメント、新生児の沐浴、授乳時におけるポジショニングとラッチオンの援助方法について演習する。また、健康教育の意義を学習し、対象に必要な健康教育に関してロールプレイを行うことを通して、産褥期の看護援助の目的・方法、さらに女性や家族に対する健康教育の計画立案から実施・評価の方法を学習する。				
【キーワード】	周産期看護、新生児・褥婦のフィジカルアセスメント、健康教育				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 褥婦および新生児のフィジカルアセスメントを実施できる。 2. 新生児の沐浴を安全・安楽に実施できる。 3. 授乳の援助ができる。 4. 健康教育の意義を理解し、対象に合わせた健康教育を計画の立案から実施・評価できる。 5. 妊婦の身体変化を理解し看護援助について説明できる。 				
【授業方法】	演習資料に基づいて、各技術を演習する。グループワークにより立案した健康教育について発表し、互いに学習内容を共有する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第2回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第3回	授乳時のポジションとラッチオン/産褥期の看護/妊婦体験 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第4回	授乳時のポジションとラッチオン/産褥期の看護/妊婦体験 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第5回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第6回	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン/新生児の沐浴 (中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第7回	授乳時のポジションとラッチオン/産褥期の看護(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	
第8回	授乳時のポジションとラッチオン/産褥期の看護(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)			事前:教科書・演習資料の該当内容を確認する。 事後:演習内容の復習および課題内容の作成	

第 9 回	健康教育イントロダクション(大和田裕美)	事前: 母性看護援助論Ⅱの事例の内容及び看護計画の確認を行う。 事後: 健康教育の方法の手順の復習
第 10 回	健康教育案作成及び媒体作成(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 母性看護援助論Ⅱの事例についての看護計画内容の具体的な検討を行う。 事後: 健康教育の実施方法について再検討する。
第 11 回	健康教育発表(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 健康教育の実施方法の工夫について考える。 事後: 課題内容の作成
第 12 回	健康教育発表(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 健康教育の実施方法の工夫について考える。 事後: 課題内容の作成
第 13 回	母性看護技術まとめ(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 学修した技術の復習を行う。 事後: 技術演習の自己評価を行う。
第 14 回	母性看護技術まとめ(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 学修した技術の復習を行う。 事後: 技術演習の自己評価を行う。
第 15 回	まとめ(中川有加、福島恭子、大和田裕美、池田美音、予定教員)	事前: 学修した技術の復習を行う。 事後: 技術の習得についての自己課題を見つけ臨地実習に備える。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰの単位を取得していること	
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 評価は、技術試験 60% (DP3: 到達目標 1~3 に対応)、グループワークでの成果物および課題提出 40% (DP2: 到達目標 1~5 に対応)により総合的に評価する。	
【フィードバックの方法】	演習内容については講義内でフィードバックを行う。演習課題は指定の用紙で提出し、臨地実習前にフィードバックを行う。	
【テキスト】	母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル／斎藤いずみ他編集／南江堂／ISBN978-4524229796 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル／大平光子他編集／南江堂／ISBN978-4524228881	
【参考図書】	パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護(第 2 版)／堀内成子編／照林社／ISBN 978-4-7965-2411-7 母乳育児スタンダード第 2 版／NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編／医学書院／ISBN978-4-260-02070-1 新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス／平澤美恵子、村上睦子監修／インターメディカ／ISBN978-4899964100	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク ■E その他(ロールプレイ) □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 助産師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	なし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	母性看護学実習	【科目英語名】	Practice in Maternal and Newborn Nursing
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	実習	【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*中川有加		
【担当教員】	*中川有加、*福島恭子、*大和田裕美、*池田美音、*予定教員		
【授業の概要】	母性看護領域における看護の対象者は、主として健康な妊産褥婦とその胎児・新生児である。妊娠・分娩・産褥・新生児各期に生ずる変化は生理的なものであり、対象者自らの回復・適応力を引き出し、より良い健康状態となることを支援することが求められる。本実習では、受持ち母子の看護過程展開を通して、ウェルネスの概念に基づく看護を実践すると共に、退院後の生活を踏まえた支援に必要な知識・技術を提供できる。		
【キーワード】	女性を中心としたケア、家族を中心としたケア、地域との連携		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 ■DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期の女性の身体的・心理的・社会的変化の理解および胎児・新生児の成長発達を診査しそれぞれの対象の健康の保持増進に向けた援助ができる。 2. 妊産褥婦と胎児・新生児、パートナー、家族の新しい役割への適応状態を診査し、適応を促すための援助ができる。 3. 倫理的配慮のもと実習し、保健医療福祉チームの一員として行動することの重要性を説明できる。 4. 実習を通して、母子保健に関する社会の動向や保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。 		
【授業方法】			
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
1日目	実習病棟のオリエンテーションを受け、受け持ち母子を決定し、情報収集を行う。	【事前課題】	
2日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集する。小集団指導を見学する。カンファレンスを実施する。	1.母性看護学演習で行った看護技術を、モデル人形、模型を用いて正確かつ安全に行えるよう、実習室で十分に練習する。	
3日目	(学内日)収集した情報の整理、アセスメント、看護過程の展開を行う。受け持ち褥婦への健康教育の企画、実施に向けて準備を行う。	「習得すべき看護技術」	
4日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、ケアを実践しながら、看護計画を評価し修正する。カンファレンスを実施する。	・褥婦の観察:子宮復古状態・悪露、外陰部	
5日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、看護計画に沿ってケアを実践する。日々の変化や退院に向けて必要時ケアを修正する。カンファレンスを実施する。	・新生児の観察:身体計測・フィジカルアセスメント、抱き方、更衣、おむつ交換	
6日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集する。小集団指導を見学する。カンファレンスを実施する。	・新生児の沐浴(自己チェックリストを用いて、5回以上練習すること)	
7日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、ケアを実践しながら、看護計画を評価し修正する。カンファレンスを実施する。	・母乳育児支援:乳房の観察、適切なラッチ・オン、ポジショニング、排気の仕方	
8日目	(学内日)受け持ち母子に実施したケアで深めたいテーマまたは母子のケアに関して興味のあるテーマからレポート作成しプレゼンテーションを行うまとめの会に向けて文献学習を行う。	2. 受け持ち母子のアセスメントに必要な知識を整理し、観察時にすぐに正常範囲からの逸脱の有無等が判断できるような資料を作成する。	
9日目	日々の看護目標・自己の行動目標を発表後、受け持ち母子に対して、看護計画に沿ってケアを実践する。日々の変化や退院に向けて必要時ケアを修正する。最終カンファレンスを実施し、学びを共有する。	・褥婦:褥婦のバイタルサインの正常範囲、経期的な子宮の大きさの変化、経期的な悪露の色と量の変化、会陰部の創傷の観察項目、肛門部の状態	
10日目	まとめの会で「ケースの概要と看護に関する文献的考察」をプレゼンテーションし、実習と文献学習で深めた学びを共有する。「母性看護学実習評価表」を用いて個別に評価面接を行う。	・乳房・乳輪・乳頭の観察項目、授乳時のポジショニングとラッチ・オンの観察項目、帝王切開術後の基本的な管理・ケア	
		・新生児:新生児のバイタルサインの正常範囲、生理的体重減少の範囲、生理的黄疸の範囲、全身の観察項目(原始反射・成熟徴候含む)	
		【事後課題】	
		その日の実習を振り返り、計画した看護目標・自己の行動目標の評価と学びを実習記録用紙に記録し、翌日の看護目標・自己の行動目標を立案する。	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習の単位を取得していることを履修条件とする。				
【関連科目】	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 母性看護学実習評価表 100%(DP3・5:到達目標 1~4 に対応)を用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	実習:母子へのケア実施前後に担当教員あるいは実習指導者が口頭で助言を行う。 実習記録:担当教員による記録へのコメントの記載あるいは口頭でコメント・助言を行う。 実習終了後、実習記録および「母性看護学実習評価表」を用いて、個別面接で担当教員から口頭でコメント・助言を行う。				
【テキスト】	看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル改訂第 3 版/齋藤いずみ・長谷川ともみ・三隅順子/南江堂/ISBN978-4-524-22979-6 看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル改訂第 3 版/大平光子・井上尚美・大月恵理子・佐々木くみ子・林ひろみ/南江堂/ISBN978-4-524-22888-1 看護学テキスト NiCE 病態・治療論[13]産科婦人科疾患/百枝幹雄・山中美智子・森明子/南江堂/ISBN978-4-524-23754-8				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート □B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 助産師として臨床経験豊富な教員が担当する。				
【その他】	感染症拡大の影響等により臨地実習が行えない場合には、学内に切り替え、内容を一部変更することがある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	小児看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Child Health Nursing	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*山下早苗				
【担当教員】	*山下早苗、*鈴木和香子、*上松あゆみ(非常勤)、*荘司貴代(非常勤)、*満下紀恵(非常勤)、*山内豊浩(非常勤)、*渡邊健一郎(非常勤)				
【授業の概要】	小児看護の基礎的知識を養うために、小児医療・看護の歴史の変遷を学び、小児看護の目的や対象について理解する。また、小児期の成長発達段階や社会制度、小児看護に必要な理論を学び、乳幼児期における成長発達の支援について理解する。さらに、小児看護の基礎的知識として小児期における代表的疾患の特徴についても学ぶ。				
【キーワード】	小児の成長発達、小児看護に必要な理論、小児を取り巻く社会制度、小児期の代表的疾患				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	成長発達段階における小児を対象とする看護の基礎的知識を修得する。				
【授業方法】	教科書・配布資料・DVDを活用しながら、授業を進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	小児看護の歴史の変遷や目的、小児看護の活動の場の特徴 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第2回	小児の成長発達:身体の構造 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第3回	小児の成長発達:身体の機能 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第4回	小児の成長発達評価 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第5回	乳幼児期の成長発達支援:栄養 (鈴木和香子)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第6回	乳幼児期の成長発達支援:日常生活の自立 (鈴木和香子)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第7回	小児看護に必要な理論 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第8回	小児を取り巻く社会制度と諸統計 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第9回	小児看護の倫理 (山下早苗)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第10回	小児期の代表的疾患:循環器・呼吸器疾患 (満下紀恵)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第11回	小児期の代表的疾患:感染症、免疫・アレルギー性疾患 (荘司貴代)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第12回	小児期の代表的疾患:消化器疾患、腎・泌尿器疾患 (山内豊浩)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第13回	小児期の代表的疾患:内分泌・代謝性疾患、先天異常 (上松あゆみ)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第14回	小児期の代表的疾患:血液・腫瘍性疾患 (渡邊健一郎)	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第15回	まとめ (山下早苗)	第1～14回までの学習内容の整理と期末試験準備			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	小児看護援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 期末試験 100%(DP1-2:到達目標 1 に対応)				
【フィードバックの	・リアクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時またはユニパで行う。				

【方法】	・期末試験の結果はユニパで連絡し、希望者には試験結果を開示する。				
【テキスト】	・ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 /中野綾美 他/メディカ出版/ISBN: 978-4-8404-6515-1 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論/奈良間美保ほか/ 医学書院/ ISBN:978-4-260-03860-7				
【参考図書】	適宜紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師・医師として実務経験のある教員が、小児看護・小児医療における経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)

【科目名】	小児看護援助論		【科目英語名】	Child Hearth Nursing	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 梁川明				
【担当教員】	* 梁川明、* 鈴木和香子、* 池田麻左子、* 丸山始美				
【授業の概要】	一人ひとりの患児が最も即した環境で治療を受けるためには、成長発達段階に合った療育環境の整備を行うことや、個別性を重視した小児看護の力が必要となる。小児期によくみられる疾患や症状に応じた看護、病気の経過別（急性期・回復期・慢性期・終末期）に応じた小児看護、ハイリスク新生児や障がいがある子どもの看護において、成長発達段階と健康レベルを考慮した看護介入の具体的方法を学ぶ。				
【キーワード】	患児、療育、成長発達				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 小児期の代表的な症状や疾患とその看護を理解できる。 2. 小児期各期における成長発達への個別的支援方法を理解できる。 3. 疾患や障がいをもった小児を取り囲む教育・地域・社会資源の現状を理解できる。				
【授業方法】	オリエンテーションは初回冒頭に行う。講義は、教科書と配布資料の両方を使用する。講義内で動画視聴やグループワークを行うこともある。国家試験によく出題される内容については、講義内で具体的に解説する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	オリエンテーション・子どものアセスメント・症状別看護1(痛み)(梁川明)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第2回	入院や治療が子どもと家族に及ぼす影響とその看護(鈴木和香子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第3回	症状別看護2(発熱・脱水・発疹)(梁川明)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第4回	症状別看護3(呼吸困難・意識障害・ショック)(丸山始美)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第5回	慢性疾患をもち長期に療養コントロールが必要な子どもの看護1(血液疾患・腎疾患・1型糖尿病)(梁川明)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第6回	慢性疾患をもち長期に療養コントロールが必要な子どもの看護2(小児がん)(丸山始美)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第7回	急性期状態にある子どもの看護(川崎病・気管支喘息・アレルギー)(丸山始美)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第8回	ハイリスク新生児と家族の看護(池田麻左子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第9回	手術をうける子どもの看護1(先天性心疾患)(鈴木和香子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第10回	手術をうける子どもの看護2(消化器疾患)(鈴木和香子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第11回	神経疾患を持つ子どもの看護(池田麻左子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第12回	発達障害、虐待を受けた子どもの看護(鈴木和香子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第13回	子どもの事故・外傷、運動器疾患の子どもの看護(鈴木和香子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第14回	子どものアセスメント(池田麻左子)	事前:教科書の該当ページを予習する。 事後:配布資料をもとに復習する。			
第15回	まとめ(梁川明)	第1回～14回までの講義内容を復習する。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	「小児看護学概論」を履修し、単位を取得していること。				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護学演習、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。				

	期末試験 100% (DP1-2: 目標 1、2、3 に対応)				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーへの質問には、講義内で説明あるいは書面でコメントを返す。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論／奈良間美保ほか／医学書院／ISBN: 978-4-260-03866-9 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論／奈良間美保ほか／医学書院／ISBN: 978-4-260-03860-7				
【参考図書】	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 / 中野綾美 他 / メディカ出版 / ISBN: 978-4-8404-7842-7				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師業務経験を有する教員が、小児看護の経験を生かして講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)

【科目名】	小児看護学演習	【科目英語名】	Seminar in Child Health Nursing
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	演習	【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*丸山始美		
【担当教員】	*丸山始美、*鈴木和香子、*池田麻左子、*梁川明、*松平千佳		
【授業の概要】	小児看護では、子どもの成長発達を踏まえ、疾患や障がいをもつ子どもと家族の状態を理解し、その状態に応じた看護実践を行う必要がある。さらに、子どもの権利や子どもや家族への倫理的配慮を考慮しながら、看護することが重要である。本授業は、疾患や障がいをもつ子どもと家族に対するセルフケア理論を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。また、子どもの安全を守る看護技術や、バイタルサイン測定・身体計測・輸液管理・BLSなど、小児看護における基礎的看護技術を学修する。		
【キーワード】	小児看護技術、小児看護過程、子どもと家族への倫理的配慮		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 疾病や障がいをもつ子どもの模擬事例を用いて、セルフケア理論に基づいた看護展開(アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案)ができる。 2. グループワークを通して、子どもに適した看護を説明できる。 3. 小児看護における基本的看護技術を修得できる。 4. 子どもの権利や倫理的配慮を意識した子どもへの看護を説明できる。		
【授業方法】	授業は講義・技術演習・課題学習(事例検討・事例発表)により行う。 技術演習は小児看護において日常的に実施されやすい看護技術を学ぶ。必要に応じて各演習の前週または当日に、必要な資料の配布および説明を行う。教科書のAR、教員が作成したVimeoの動画を使用する。 課題学習は動画による模擬事例を基に、個人及びグループワークを行い、事例発表にて発表する。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス(丸山始美)	事前:小児看護学概論・援助論の内容を復習する 事後:ガイダンス資料を見直し、示された事前課題を実施する	
第2回	チーム医療におけるHPSの活動:小児医療現場におけるHPSの取り組みとプレパレーション1(松平千佳)	事前:該当内容を予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第3回	チーム医療におけるHPSの活動:小児医療現場におけるHPSの取り組みとプレパレーション2(松平千佳)	事前:該当内容を予習する 事後:授業で学んだ内容の復習する	
第4回	バイタルサイン測定(技術演習1) (鈴木和香子・池田麻左子・丸山始美・梁川明)	事前:発達に応じた小児のVS測定方法や正常値について予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第5回	身体計測(技術演習2) (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:発達に応じた小児の身体測定の方法や正常値について予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第6回	輸液管理(技術演習3) (梁川明・鈴木和香子・池田麻左子・丸山始美)	事前:小児の輸液管理の方法を予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第7回	安全な療育環境の管理と患者搬送(技術演習4) (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:療育環境の管理や点滴中の小児の搬送について予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第8回	小児のBLSとKYT(危険予知訓練)(技術演習5) (池田麻左子・鈴木和香子・丸山始美・梁川明)	事前:小児のBLSについて予習する 事後:授業で学んだ内容を復習する	
第9回	事例検討:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程1 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:事例の動画を確認し、看護展開を行う 事後:看護展開を行う	
第10回	事例検討:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程2 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:看護展開を行う 事後:看護展開を行う	
第11回	事例検討:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程3 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:看護展開を行う 事後:看護展開を行う	
第12回	事例検討:疾病や障がいをもつ子どもの看護過程4 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前:看護展開を行う 事後:看護展開を行う	

第 13 回	事例検討: 疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 5 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前: 看護展開を行い、発表の準備をする 事後: 看護展開を行い、発表の準備をする			
第 14 回	事例発表: 疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 6 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前: 発表の準備をする 事後: 発表会から学んだ内容について復習する			
第 15 回	事例発表: 疾病や障がいをもつ子どもの看護過程 7 (丸山始美・鈴木和香子・池田麻左子・梁川明)	事前: 発表の準備をする 事後: 発表会から学んだ内容について復習する			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	「小児看護学概論」を履修し、単位を取得していること。 講義で学習したことを踏まえて積極的に自己学習する姿勢を前提とする。				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護学実習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 看護過程: 個人 40%、グループ 20% (DP2: 到達目標 1、2、4 に対応)、技術チェックリスト 40% (DP3: 到達目標 3、4 に対応) を総合して評価する。評価基準は初回に説明する。				
【フィードバックの方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した概論・援助論・演習の復習した内容を、実習の事前学習として提出する。助言は実習時に行う。質問は適宜対応する。提出した看護過程、課題レポート、技術チェックリストは、実習時に学生に返却し、実習時に活用する。 ・疾病や障がいをもつ子どもと家族の看護について演習で学んだことを実習で活かす。フィードバックは、小児看護学実習時に行う。 ・レポート課題や技術チェックリストの質問には、次回講義内で説明あるいは Teams でコメントを返す。 				
【テキスト】	ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 / 中野綾美 他 / メディカ出版 / ISBN 978-4-8404-6516-8				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション / デイバート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 () <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 小児看護の経験のある教員が実務経験を生かして演習を担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可 (但し日本語)

【科目名】	小児看護学実習	【科目英語名】	Practice in Child Health Nursing
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	実習	【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*鈴木和香子		
【担当教員】	*鈴木和香子、*山下早苗、*池田麻左子、*丸山始美、*梁川明		
【授業の概要】	疾患や障害を持つ成長発達過程にある子どもを受け持ち、子どもと家族のセルフケアを支える看護実践能力を身に付けることができる。療養中の子どもの権利について治療と療育の両側面から課題を見出し議論することにより、小児看護実践における倫理的感受性を身に付けることができる。さまざまな状況にある子どもや家族が示す反応の意味をとらえ、最も望ましい療育環境を整備することができる。既習の知識・技術を基盤としチーム医療の一員として関連する地域や教育、福祉、保健などの現状や課題について考えることができる。		
【キーワード】	小児看護実践能力、倫理的感受性、セルフケア理論		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 ■DP4 □DP5 □DP		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達段階および健康状態を理解できる。 2. 子どもを養育する家族の状況を理解できる。 3. 発達段階に応じたコミュニケーションの方法を工夫し、子どもと良い対人関係を形成できる。 4. 子どもを取り巻く環境を理解し、家族と良い対人関係を形成できる。 5. 子どもを中心としたチーム医療であることを理解し、医療関係者(教員を含む)とも良い対人関係を形成できる。 6. セルフケア理論に基づいて情報を収集し、アセスメントできる。 7. 子どもと家族のセルフケア能力を支援する看護計画を立案し、実践評価できる。 8. 子どもや家族の反応を観察しながら看護実践できる。 9. 安全安楽な看護実践ができる。 10. チーム医療の一員として報告・連絡・相談ができる。 11. 子どもを対象とする外来および新生児未熟児病棟における看護の実際を理解できる。 12. 倫理的課題に気づき、カンファレンスで討議することができる。 		
【授業方法】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間は2週間で「静岡県立こども病院」「静岡てんかん・神経医療センター」で実習を行う。 2. 入院している子どもを受け持ち実習を行う。 3. セルフケア理論を用いた思考の整理を行う。 4. 臨床指導看護師から助言を受けて看護師とともに小児看護実践を行う。 5. 小児看護実践に伴い発生する倫理的課題を見出し、グループで討議する。 6. カンファレンスを行い、集団学習する。 7. 外来看護や低出生体重児の看護の実際を見学する。 		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
	<p>1日目 AM:実習オリエンテーション PM:病棟オリエンテーション・患児紹介・情報収取</p> <p>2日目 AM:病棟実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス</p> <p>3日目 学内実習日(情報の整理・アセスメント・関連図作成)</p> <p>4日目 AM:外来・新生児未熟児病棟見学実習 PM:病棟実習・グループカンファレンス</p>	<p>【事前課題】「成長発達」「セルフケア理論」「小児期の遊び」 入院患者に多く見られる疾患とその看護(感染症疾患、内分泌・代謝性疾患 自己免疫性疾患、腎疾患、腫瘍性疾患 先天性心疾患・呼吸器疾患 消化器疾患、骨・神経疾患)</p> <p>【事後課題】患児の病態生理・治療の内容についてのまとめ、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】患児に関する看護上必要な情報</p> <p>【事後課題】各アセスメント項目に基づいた情報を分類し不足情報の整理</p> <p>【事前課題】アセスメントの統合</p> <p>【事後課題】関連図作成、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】小児科外来と新生児未熟児病棟に関する学習</p>	

	<p>5 日目 AM: 病棟実習 PM: 病棟実習・グループカンファレンス(関連図の発表)</p> <p>6 日目 AM: 病棟実習 PM: 病棟実習・グループカンファレンス (ケアプランの発表)</p> <p>7 日目 AM: 病棟実習 PM: 病棟実習・グループカンファレンス</p> <p>8 日目 学内学習日(看護計画の評価と修正)</p> <p>9 日目 AM: 病棟実習 PM: 病棟実習・グループカンファレンス(小児看護実践 における倫理について)</p> <p>10 日目 AM: 病棟実習・最終グループカンファレンス PM: 教員と実習のまとめ・記録提出</p>	<p>【事後課題】見学実習のまとめ(実習記録用紙Ⅷに記載)、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】関連図の完成・カンファレンス資料・発表準備</p> <p>【事後課題】関連図の修正、ケアプランの立案、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】ケアプランの完成、カンファレンスでの発表準備</p> <p>【事後課題】ケアプランの見直し、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】グループカンファレンスの議題準備</p> <p>【事後課題】ケアプランの見直し、翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】実習期間中に感じた倫理的課題の記載(実習記録用紙Ⅷ)</p> <p>【事後課題】翌日の実習計画立案</p> <p>【事前課題】グループカンファレンスの準備</p> <p>【事後課題】翌日の実習計画立案、記録のまとめ</p> <p>【事前課題】要約(実習記録用紙Ⅵ)の記載</p> <p>【事後課題】教員との実習まとめについて振り返り</p>			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	<p>・「小児看護学概論」「小児看護援助論」「小児看護学演習」を履修し、単位を取得していること</p> <p>・4 種感染症(麻疹・水痘・風疹・流行耳下腺炎)に関して、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」基準を満たしていること</p>				
【関連科目】	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護学演習				
【評価方法】	<p>原則として、全実習日数(学内日含む)の 3/4 以上の出席がなければ評価を受けることができない。</p> <p>小児看護学実習評価表(コミュニケーション能力・対象理解・思考の整理・看護実践・看護の課題に対する看護実践能力)100%(DP3・4:到達目標 1~12 に対応)に基づき総合的に評価する。</p>				
【フィードバックの方法】	記載した実習記録やカンファレンスでの発言の内容から、実習に関する疑問点や質問をピックアップし、実習中に回答あるいはともに熟考する。適宜面談を行い、口頭での質問には随時答える。				
【テキスト】	適宜紹介する				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<p>■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション</p> <p>■D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし</p>				
【実務経験のある教員による授業】	* 小児看護の実務経験がある教員が、経験を活かした実習指導を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護学概論	【科目英語名】	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing		
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義	【授業時間数】	30時間		
【科目責任者】	*小泉祐貴				
【担当教員】	*小泉祐貴、*篁宗一、*近藤美保、*非常勤講師(精神科医師)、*外部講師				
【授業の概要】	精神疾患の特徴や治療・看護の基本的知識を学ぶことで、精神科看護を理解する基盤となる力を身につける。さらに、社会や地域における精神保健の維持・向上についての各種知識を学ぶことで、入院中及び地域で生活する精神障害者を多角的視点から捉える力や、社会一般の人々の精神保健の維持・向上について考える力を養う。				
【キーワード】	精神医学、精神保健、精神看護、当事者理解				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 精神医学の基本的知識を理解し、各種精神疾患における精神症状や治療等について説明できる。 2. 社会の中で必要な精神保健や、看護援助についての基本的知識を理解し、説明できる。 3. 社会の動向の中での精神医学・看護の政策や今度の課題について、学習した知識を基に考え、説明することができる。				
【授業方法】	講義が中心であるが、講義内容に応じてグループワークや演習等を取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	精神看護学概論の総論と授業日程等について（小泉祐貴）	事前：精神医学について教科書での予習 事後：配布資料の復習			
第2回	精神医学概論～「こころ」とは、「こころ」の病とは（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第3回	精神科の診察，精神医療①（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第4回	精神医療②（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第5回	心因性精神障害～神経症，心因性精神病等（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第6回	外因性精神障害～器質精神病，症状精神病（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第7回	その他の精神障害～パーソナリティ障害等（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第8回	内因性精神障害～統合失調症，気分障害（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第9回	これからの精神医療（精神科医師）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第10回	職場の精神保健（篁宗一）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第11回	精神障害を有する当事者のお話（*外部講師）	事前：事例配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第12回	摂食障害と看護（近藤美保）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第13回	災害時のメンタルヘルス（小泉祐貴）	事前：事前配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第14回	精神看護の動向等について（篁宗一）	事前：事例配信資料の確認 事後：リアクションペーパーの提出			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	精神看護援助論、精神看護学演習、精神看護学実習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。				

	課題レポート 60%(DP1-2 及び DP5:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 40%(DP1-2 及び DP5:到達目標 1~3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	・授業についての質問等は、授業終了時に実施する、またはユニパの Q&A を用いて回答する。 ・レポート課題は、評価終了後、教員より課題の意図と考察のポイント等を解説して配信する。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-064-0 精神看護学[2]精神臨床看護学(第 6 版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-065-7				
【参考図書】	上島国利・他: 精神医学テキスト 南江堂				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして演習を実施する。				
【その他】	原則として対面で実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	精神看護援助論		【科目英語名】	Psychiatric and Mental Health Nursing	
【開講時期】	3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義		【授業時間数】	15時間	
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員、* 篁宗一、* 近藤美保、* 小泉祐貴、* 外部講師				
【授業の概要】	精神科臨床現場における精神疾患患者の特性や治療及び看護援助に関する基本的知識を学び、習得する。さらに、個人及び集団の精神保健の維持・向上へ向けた各種取り組みについて学び、精神保健医療福祉の動向や課題に関心を持って看護援助を考える姿勢を養う。				
【キーワード】	精神疾患患者の理解、看護援助、地域生活支援				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 精神疾患患者の特性や、治療及び看護援助について理解を深め、説明することができる。 2. 地域で暮らす精神障害者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的知識を理解し、説明できる。				
【授業方法】	講義・グループワーク・課題学習を併用して授業を進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	精神看護学コースガイダンス 精神保健の課題：嗜癖(篁宗一)	事前 概論の講義資料等を復習しておく。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第2回	おもな精神科治療と看護(予定教員)	事前 概論の講義資料等を復習しておく。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第3回	統合失調症患者の看護(小泉祐貴)	事前 統合失調症について復習しておく。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第4回	感情障害患者の看護(近藤美保)	事前 感情障害について復習しておく。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第5回	発達障害と看護(近藤美保)	事前 発達障害について復習しておく。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第6回	精神保健医療福祉サービス(篁宗一)	事前 精神保健医療福祉の動向を調べる。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第7回	精神科看護の実践現場(* 外部講師)	事前 患者看護師関係について予習する。 事後 講義資料等を用いて復習する。			
第8回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	精神看護学概論、精神看護学演習、精神看護学実習				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 定期試験 70%(DP1-2:到達目標 1~2に対応)、課題レポート 30%(DP5:到達目標 1~2に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 レポート課題はユニパの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントをする。				
【テキスト】	精神看護学[1]精神保健学(第6版)/吉松和哉/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-064-0 精神看護学[2]精神臨床看護学(第6版)/川野雅資/ヌーヴェルヒロカワ/978-4-86174-065-7				
【参考図書】	授業中に適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他()				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスにかかわる保健師や看護師等が、その経験を活かして講義を行う。				
【その他】	原則として対面で実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可